

平成27年度

市川市公共施設に関する市民ワークショップ
「いっしょに考えよう！ 市川市の公共施設」

実施報告書

平成27年12月

目 次

1. 開催概要	-----	1
2. 第1回ワークショップ概要	-----	3
3. 第2回ワークショップ概要	-----	13
4. 第3回ワークショップ概要	-----	33
5. ワークショップ全体のまとめ	-----	46
6. 参加者アンケート	-----	50

1. 開催概要

◆ワークショップ実施の目的

市川市では、厳しい財政状況の中、公共施設の老朽化や少子高齢化に対応していくため、今後の施設の計画的な管理に関する基本方針となる「市川市公共施設等総合管理計画」の策定を進めています。

本計画は、将来の公共施設のあり方や街づくりに大きく影響するものであることから、策定にあたっては、市民の皆様のご意見を伺いながら進めていくことが重要であると考えています。

今回のワークショップでは、参加者の皆様に本市の公共施設の現状について説明し、グループごとに意見交換を行いながら、将来の公共施設のあり方について、全3回の日程で考えていきました。

◆開催日時・会場

	日 時	場 所
第1回	平成27年10月31日(土) 午後2時30分～4時30分	市川市役所本庁舎 5階 理事者控室
第2回	平成27年11月15日(日) 午前10時～12時	
第3回	平成27年11月29日(日) 午前10時～12時	

◆参加者

「市川市公共施設に関するアンケート調査※」回答者のうち参加希望者：25名

ワークショップ参加者：22名

都合により不参加：3名

(※平成27年8月28日～9月18日実施、市内居住者18歳以上の3,000人無作為抽出)

◆ファシリテーター

芝浦工業大学 工学部建築学科 志村秀明 教授

～志村先生のプロフィール～

- ・東京都中央区月島生まれ
 - ・早稲田大学大学院理工学研究課修士課程修了
- <専門分野>
- まちづくり、市民参加、都市計画
- <主な活動>
- ・江東区豊洲地区の水域活用
 - ・江東区深川地区の街並み景観づくり
 - ・福島県二本松市の復興まちづくり支援
 - ・福島県南会津町館岩地区、只見町の景観まちづくり
- <公共施設関係>
- ・さいたま市 公共施設の複合化検討
- ワークショップコーディネーター



◆テーマおよび内容

<全体テーマ>

いっしょに考えよう！ 市川市の公共施設

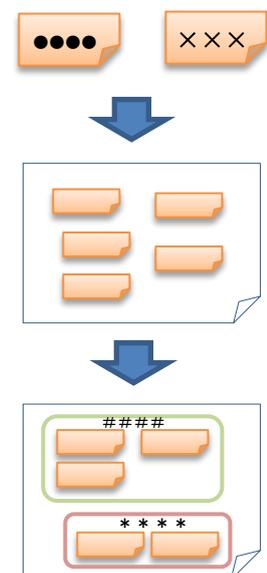
施設の現状と課題を共有し、それを踏まえたうえで、各回のテーマに沿ったグループワークを通じて、意見交換や提案、発表などを行い、市川市の公共施設の将来について参加者全員で考えました。

<内容（全3回）>

回数	内容
第1回	○テーマ <公共施設について再確認しよう！> <ul style="list-style-type: none">・「公共施設への想い」として、参加者の公共施設に対する「想い」「関わり方」などをイラストや言葉などで表現し、発表および意見交換を行いました。・施設の現状や課題、これまでの取組み状況、市民アンケート結果等について、市より説明があり、参加者全員で共有しました。
第2回	○テーマ <公共施設ごとにどうあるべきか考えよう！> <ul style="list-style-type: none">・市の施設のうち、「小・中学校」「集会施設」「その他施設（図書館など）」の3用途について、「現状の課題」や「将来に向けて」などを考え、発表および意見交換を行いました。
第3回	○テーマ <市川市らしい公共施設のあり方を考えよう！> <ul style="list-style-type: none">・今回のワークショップのまとめとして、今後の市川市の公共施設全体を表す「キャッチコピー」「キーワード」や「自分たちができること」を考え、意見交換および発表を行ないました。

◆グループワークの主な進め方

- ① 自分の考えをポストイット（付箋）に書き出す
 - ・1枚につき1項目（大きな字で簡潔に書く）
- ② 1人ずつ順番に自分の意見を発表する
 - ・発表者は、記入した内容とその理由を発表
 - ・各グループに配置したサブファシリテーターがポストイットを模造紙に貼っていく
- ③ 出た意見を分類し、分類ごとに見出しをつける
 - ・話し合いながら、内容の近いもの、似ているものをまとめて貼り直し、分類をつくる（分類ごとに囲み、見出しをつける）
 - ・グループごとに話し合った内容をまとめる
- ④ 発表をする
 - ・発表の代表者や順番、発表方法を決め、模造紙を掲示し、参加者全員の前で発表する。



2. 第1回ワークショップ概要

◆開催日時 平成27年10月31日(土)午後2時30分～4時30分

◆参加者 19名

◆第1回テーマ **「公共施設について再確認しよう！」**

◆プログラム

時間	内容
14:30～14:45 (15分)	<あいさつ、自己紹介> ・主催者およびファシリテーターのあいさつ ・ワークショップの趣旨説明 ・参加者のあいさつ
14:45分～15:15 (30分)	<グループワーク> ・ファシリテーターから作業の流れを説明 ・公共施設への「想い」や「関わり方」などをイラストや文章で画用紙に表現
15:15～15:45 (30分)	<発表> ・グループごとに発表
15:45～15:55 (10分)	<休憩>
15:55～16:15 (20分)	<公共施設の実態等の説明> ・市から、公共施設白書の概要や市民アンケートの結果等について説明
16:15～16:25 (10分)	<まとめ> ・ファシリテーターによる今回のまとめ
16:25～16:30 (5分)	・次回の内容、事務連絡、アンケート記入

◆開催概要

ワークショップ初回は、参加者に公共施設への「想い」や「関わり方」などをイラストと言葉で表現してもらい、意見交換をしました。

子どもの頃通った図書館、日頃使用している公民館やグラウンド、毎日歩く道路や橋など、参加者からは公共施設に対して様々な「思い出」や「意見」「期待」が寄せられました。

中には、公共施設の「建物」や「備品」だけでなく、その施設がおかれる「環境」、施設がつくる「景観」、場としての「機能」や地域のあり方、人の関わりにまで触れる意見が出て、議論はとても広がりのあるものになりました。

今回は、対象施設を「学校施設」「集会施設」「図書館その他施設」に分けて、より具体的に議論を深めていくこととなりました。

最後に、ファシリテーターを務める芝浦工業大学の志村先生が、「このままでいくと施設の3割は維持できなくなるという厳しい現実を受け止めたくて、しかしながら悲観することなく、この課題をいかに工夫とアイデアで打開するかという前向きな考えで検討し、意見を出していただきたい」と呼びかけ、参加者は真剣な表情で資料を読み込んでいました。



グループワークの様子



グループ発表の様子

◆市川市・経営改革課長あいさつ

公共施設に関する市民ワークショップにご参加いただきありがとうございます。

本市では、高度経済成長期に学校、公民館、市営住宅といった公共施設や、道路、下水道、橋といったインフラが集中的に整備されました。これらの施設が建設から40年～50年経過し、老朽化が進んでいます。

人口が減り、少子高齢化で年齢構成も変わる中で、行政も限りある財源で対応しなければならない時代が近々やってきます。全国的な問題ですが、市川市として今年度を目途に、今後の公共施設の方向性、あり方を定める「公共施設総合管理計画」を策定いたします。策定にあたっては、施設を利用される方だけでなく、様々な立場の市民の皆様からご意見をいただきたいと考えています。

本ワークショップでは、コーディネーターである芝浦工業大学の志村先生にお力添えをいただきながら、皆様と一緒に考えていきたいと思っております。ご協力をお願いいたします。

◆ファシリテーターあいさつ（芝浦工業大学 志村先生）

市川市との関わりですが、以前、早稲田大学時代に、市川南地区の市街化整備に関するワークショップに参加していました。

公共施設再編に関しては、現在、さいたま市で行われているワークショップに関わっていますが、今回、縁があって市川市の公共施設ワークショップのファシリテーターとして参加することとなりました。よろしくお願いいたします。

全3回、「いっしょに考えよう！ 市川市の公共施設」というテーマで行ないます。

今日は第1回ということで、公共施設への想い、関わりをイラストで描いていただきます。ワークショップは、「創造的な協働作業」ともいい、協働で成果をつくりあげていくことですが、その最初は自己表現から入ります。自己表現は、イラストを描いてもらうのが一番わかりやすい方法だと考えています。次回、2回目は施設の機能・用途ごとにいろいろな意見を言葉で出させていただきます。最後3回目にまとめを行います。



◆本日の作業の流れ

公共施設に関わるイラストとキーワードを描いてください。

- ・ A3サイズの紙に、公共施設の思い出や施設の役割、地域との関わりなど様々なシーンを描いてください。
- ・ 描いた後、それぞれの絵に説明を加えてください。その後、グループごとに発表していただきます。

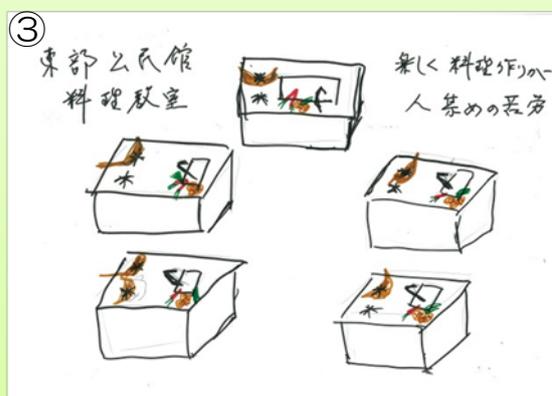
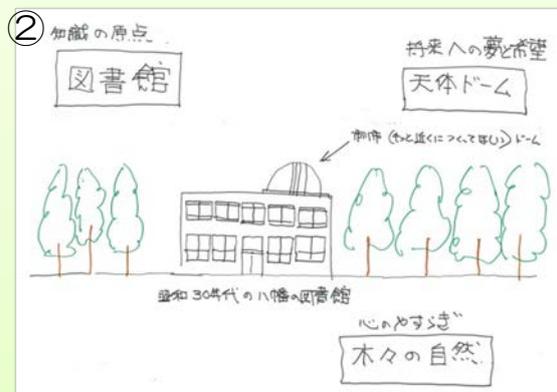
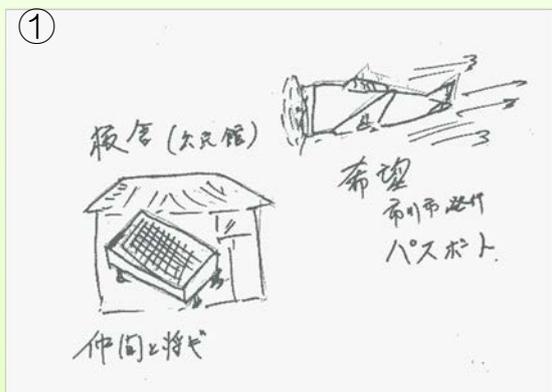


スタッフが見本を書いて
発表しました

◆第1回 グループワークおよび発表概要

Aグループ

公共施設への「想い」

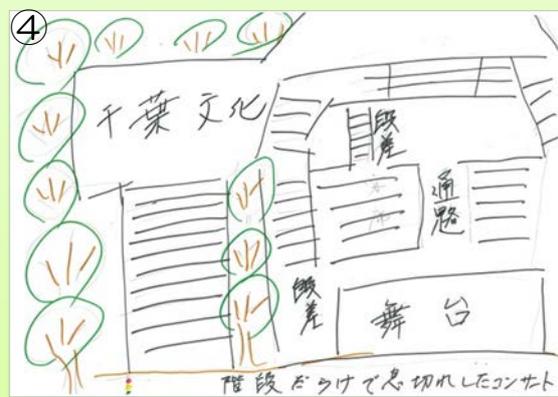
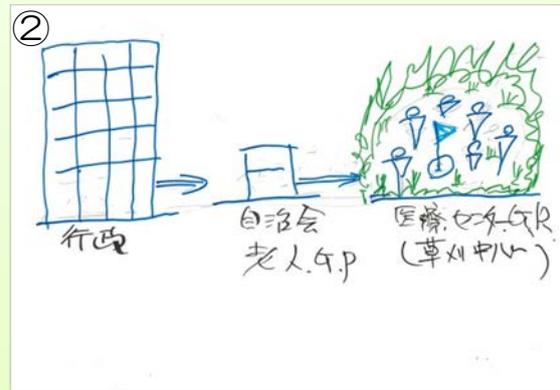
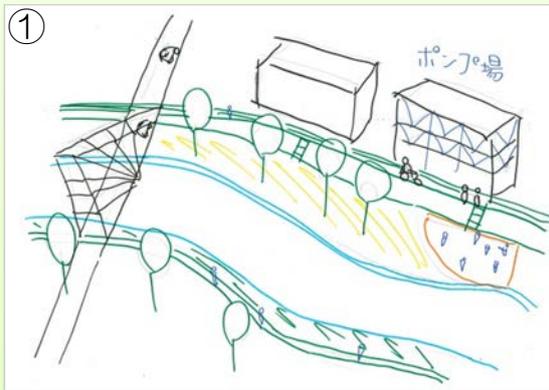


- ① 公共などの会館などで、老人がよくする将棋などがあればもっと利用するのではないか。
市川市内でパスポートの申請や発行が出来るようにするという取組みも実現してほしい。
- ② 昭和30年頃の図書館を描いたが、図書館で知識を養った。
施設は、場所を提供するだけではなく、人を育てることができる場所である。
プラネタリウムがあるが遠く、子どもたちが通わない。
- ③ 人が減ったことで1人の負担が多くなり続けられなくなったが、公民館があったおかげでこれまで「料理教室」を開催することができた。公共の施設で教室を開催することは大変だと感じた。
- ④ バラの講習会で何度か行った公園を描いた。市川市を花いっぱいの市にしたい。
オリンピックもあるので、観光できる市になってほしい。

～ファシリテーターのコメント～

- ・ 図書館は皆さんが利用する場所である。
- ・ 市川市には「南北の移動が困難」という課題がある。
- ・ 公民館などの集会施設は地域の人々が集まる場として大切。
- ・ 公園などを綺麗に維持していくためには、市民の参加や協力が必要。

公共施設への「想い」

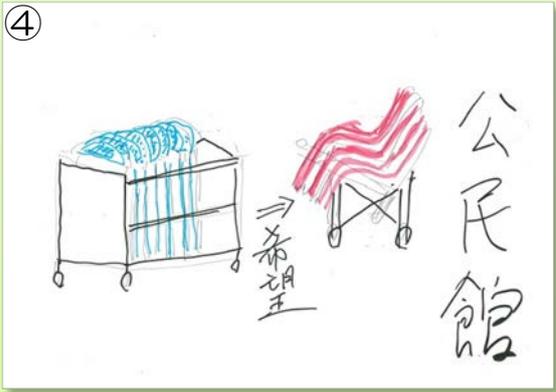


- ① 川沿いを散歩していると、塗装がはがれている橋をよく見る。
- ② 自治会館の草刈りを誰が行なうかが議論となっている。
自分たちの施設であれば自分たちが草刈りをするべきというのが私の意見である。
- ③ 小学校前に歩道があるが、子どもがつかまつかないような歩道にしてほしい。
歩行補助カートを使うお年寄りも容易に移動できるような歩道を整備してほしい。
- ④ コンサートが好きで千葉の文化会館をよく利用するが、バリアフリー化や周辺の管理もしてほしいと感じている。それと比較して市川市の文化施設は整備されている方だと思う。

～ファシリテーターのコメント～

- ・施設だけでなく市民に身近な生活環境全体を整えることが必要。
- ・施設の草刈り等については市民が行なうなど、行政との役割分担が重要になってくる。
- ・歩道の段差解消など、施設周辺環境のバリアフリー化も大切。

公共施設への「思い」

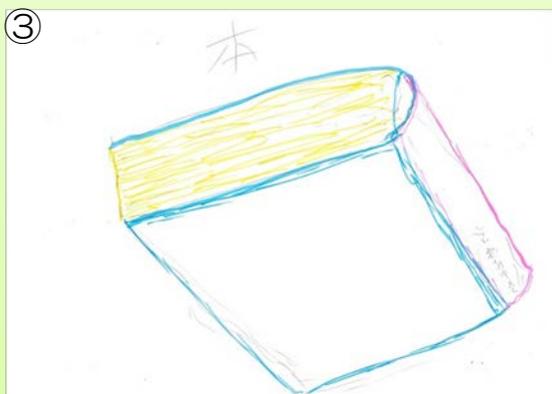
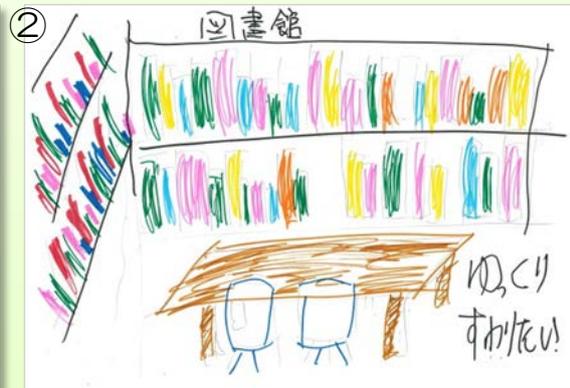


- ① 高齢者のライフスタイルを考えると、図書館やボランティア活動の場、スポーツ施設が必要である。
 公衆トイレの設置など散歩しやすい街にしてほしい。
 世代やライフスタイルに沿った公共施設を考えてほしい。
- ② 施設のユニバーサルデザイン化を進めてほしい。
- ③ 学生時代に新旧2つの中央図書館を利用して勉強した。思い出の場所となっている。
- ④ 公民館などでオーケストラの練習をしているが、パイプ椅子や傘立てがとても古い。
 箱より備品や設備が重要である。

～ファシリテーターのコメント～

- ・ 図書館は学生をはじめ、様々な世代に利用される施設。
- ・ 公民館などの備品の老朽化は今後の課題。厳しい財政状況を考えると工夫やアイデアが必要。
- ・ 公共施設だけでなくその周辺的环境も大切。
- ・ ユニバーサルデザインや複合化された施設には様々な市民が集う。その結果交流が生まれ楽しく過ごすことができる場となる。

公共施設への「想い」

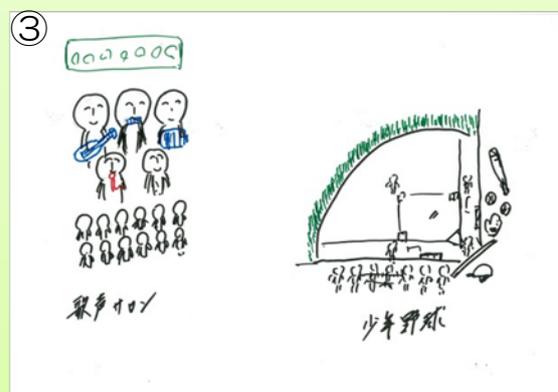
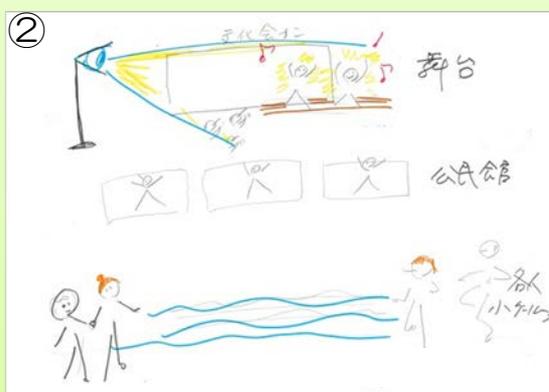
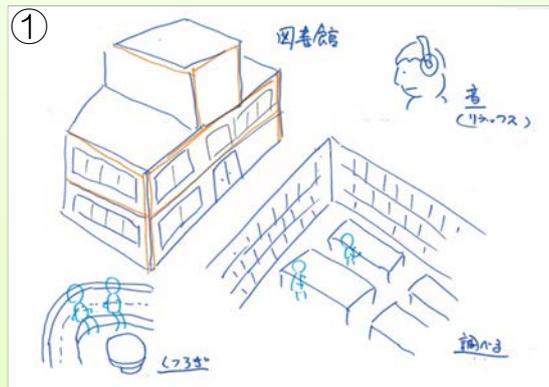


1. 小さい頃入院を繰り返していたため、公共施設というとなず病院が思い浮かんだ。
2. ゆっくり過ごせる場所として図書館を描いた。
定年退職後、色々勉強したいという意欲がでてきた。
3. 本が好きなので、市の図書館をもっと充実してほしい。
4. 外国より帰国してから市川市の中央図書館を見て、本が沢山あることに感動した。
子供の吹奏楽の発表などができるホールがあり素晴らしいと感じている。

～ファシリテーターのコメント～

- ・図書館の絵が3枚描かれた。図書館は地域にとって身近で大切な存在であると感じた。
- ・病院は本来の機能のほか、地域の交流や緊急時の活動拠点としても大切な役割を果たしている。

公共施設への「想い」



- ① 普段利用している図書館を描いた。リラックスできる施設であってほしい。
- ② 1人暮らしの高齢者が多いので集まってお茶でも飲める空間があればいい。
私の散歩コースには日陰がなく、夏の炎天下では高齢者にとって大変である。
人前に立つことは脳を活性化させるので、高齢者がステージに立つ機会や場所を作
ってほしい。
- ③ 活動団体に男性の参加者が少ない。若いうちから少年野球などで地域と関わりを持
てば、災害時に炊き出しなどを協力してできるようになる。人と人のつながりがで
きる環境作りを望む。

～ファシリテーターのコメント～

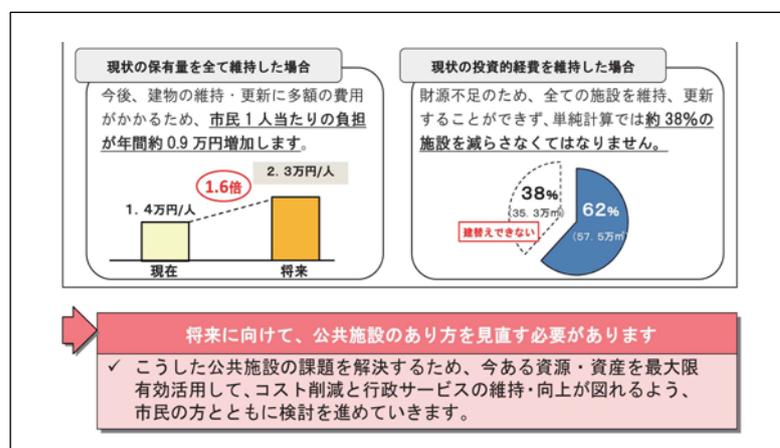
- ・1人で使うことから大人数で使うことまで、幅広いシーンが描かれている。
- ・散歩道など、生活環境を整えることは大切。
- ・男性の地域参加は今後重要性を増すと考えられるので、公共施設を上手く活用できると良い。

◆公共施設の現状等についての説明（概要）

公共施設を取り巻く現状や用途ごとの施設概要、公共施設に関するアンケート調査の結果などについて、経営改革課職員がスライドを使って説明しました。

1. 公共施設を取り巻く現状

- ・現在、施設の半数以上が築30年以上となり、老朽化が進んでいます。
- ・今後さらに少子高齢化が進むことが予測され、税収の減少や社会保障関係費の増加が見込まれます。
- ・今ある施設を同規模で改修・建替えした場合、今後40年間で4千億円以上、年間108億円の費用（今までの1.6倍）の必要との試算結果が出ています。
- ・これらの施設全てを維持・更新していくことは極めて困難であることから、将来に向けて公共施設のあり方を見直していく必要があります。



※スライド資料より

2. 市川市の取組み

- ・施設の現状や課題を把握するため、昨年度ハコモノを対象とした「市川市公共施設白書」を作成しました。
- ・白書で整理した情報を基に、今後の公共施設全体のあり方を定める「市川市公共施設等総合管理計画」を策定します。
- ・施設の見直し（計画の策定）にあたっては、施設ごとに市民のニーズや地域における役割、安全性などを考慮し考えていくことが必要です。

3. 施設の用途ごとの概要

学校、集会施設、図書館の3用途について、施設概要、分野ごとの現状課題、利用状況、活用事例などを説明しました。

4. アンケート調査結果

- ・対象者3,000人のうち回答数1,668人、55.6%の回答率でした。
- ・その他、各設問の結果を一部抜粋して説明しました。

◆総 評（ファシリテーターより）

<全体を通して>

- ・今回、参加者の皆さんにはイラストで公共施設への想いを表現し、発表するという経験をしていただきました。
- ・これまで全国でワークショップを行っていますが、市川市でも素晴らしい作品を見ることができました。
- ・市民参加活動を研究・推進している者として、市民の力・レベルが高まっていることをとても心強く感じました。

<イラスト・発表・意見をふりかえって>

- ・公共施設そのものだけでなく、施設の周辺環境や椅子などの備品、さらには散歩コースなど生活環境全体も含めた整備が重要という意見がありました。
- ・地域参加を促したり、様々な人が交流を深めるような仕組みが必要という意見がありました。
- ・ユニバーサルデザインやバリアフリーなど、世代に配慮した施設整備を求める意見がありました。
- ・市川市には行きにくい施設があるという課題が出されました。
- ・市からは将来の人口や財政の見通しとともに、公共施設の老朽化などの課題について説明がありました。
- ・今後、市の公共施設を考えていくにあたっては、市民の参加や協力、市民と行政の役割分担、市民視点での工夫やアイデアなどが重要と言えます。

<次回に向けて>

- ・このままでいくと施設の 3 割は維持できなくなるという厳しい現状を受け止めたうえで、しかしながら悲観することなく、日本全体が抱えているこの課題を「いかに工夫とアイデアで打開するか」という前向きな考えで検討し、意見を出していただきたいと思います。
- ・次回は、皆さんの発表でも多かった **①小・中学校**、**②集会施設**、**③図書館**の3用途について取り上げたいと思います。
- ・参加者の皆さんには、本日配布された資料を2週間の間によくご覧いただき、次回のワークショップも充実したものにしたいと考えています。

～第1回ワークショップを終えて～

公共施設について、現状や課題を共有しました。また、建物だけでなく道路や公園、河川などの周辺の環境や、施設内にある設備・備品についても、施設の将来のあり方を考えていくうえで重要であることを認識しました。



3. 第2回ワークショップ概要

◆開催日時 平成27年11月15日(日)午前10時~12時

◆参加者 21名

◆第2回テーマ **「公共施設ごとにどうあるべきか考えよう！」**

◆プログラム

時間	内容
10:00~10:10 (10分)	<p><あいさつ、前回のふりかえり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファシリテーターのあいさつ ・前回ワークショップのふりかえり
10:10~10:15 (5分)	<p><グループワーク></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップの概要、作業の流れ等を説明 ・グループ内であいさつ(今日の心意気) ・グループごとに、対象用途「小・中学校」「集会施設」「その他施設(図書館など)」について意見交換
10:15~11:00 (45分)	<ul style="list-style-type: none"> ・各自付箋(メモ用紙)に記入 「課題」「大事なこと」「将来に向けて」 ・記入内容をグループ内で発表し、付箋を模造紙に貼り整理する ・発表の準備を行なう (発表方法や発表者などを決める、掲示)
11:00~11:05 (5分)	<休憩>
11:05~11:30 (25分)	<p><発表></p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに発表
11:30~11:55 (25分)	<p><意見交換></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファシリテーターより議論のポイントを説明 ・全体の発表を聞いて、さらに意見交換
11:55~12:00 (5分)	<p><今回のまとめ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファシリテーターより全体を通したまとめ ・次回の内容、事務連絡、アンケート記入

◆開催概要

第2回目は、前回のワークショップにおいて参加者の意見や発表で多かった「小・中学校」「集会施設」「その他施設（図書館など）」の3つの用途について、グループごとに意見交換を行ないました。

はじめに、自己紹介を兼ねて「今日の意気込み」を各グループ内で語り合った後、各用途について、「課題」、施設にとって「大事なこと」、そして「将来に向けて」の3つを各自付箋（フセン）に記入し、意見交換を行ないながら模造紙にまとめ、グループごとに発表を行ないました。

45分間という限られた作業時間の中で、3用途についてまとめる作業に苦労しながらも、小中学校や公民館、図書館などの「建物」自体のことだけでなく、設備や運営方法、さらには周辺環境や地域性、アクセスについてなど幅広い視点での議論となりました。



グループワークの様子



グループ発表の様子

◆前回のふりかえり・本日の作業の流れ（ファシリテーターより）

【前回のふりかえり】

前回は、公共施設への「想い」や「関わり」をイラストで表現していただきました。最初に自己表現をすることで、お互いの考えがわかるというねらいがあります。また、公共施設の再編にあたり、これから考えていかなければいけないことについて、様々な意見を出していただきました。

地域のつながりや周辺環境、多様な人々の利用、交流などの意見が出ました。

これらの意見を踏まえて、今回は公共施設ごとに考えていくこととなりますが、リアルな意見に加えて、想像力を働かせて様々なアイデアを出してください。



前回のイラストをテーマごとに分類して掲示しました

【本日の作業の流れ】

今回は、「学校」「集会施設」「その他（図書館など）」3つの用途について考えていきます。「その他」については、運営方法や再編の検討方法なども含めていただいて構いません。見本を作りましたので、参考にしてください。



書き方の見本

前回とグループが変わっていますので、最初に「今日の心意気（意気込み）」を入れたあいさつをグループ内で行なってください。

《進め方》

- 各自付箋（フセン）に記入
3つの用途について「課題」「大事なこと」「将来に向けて」
👉 文字は大きく見やすく

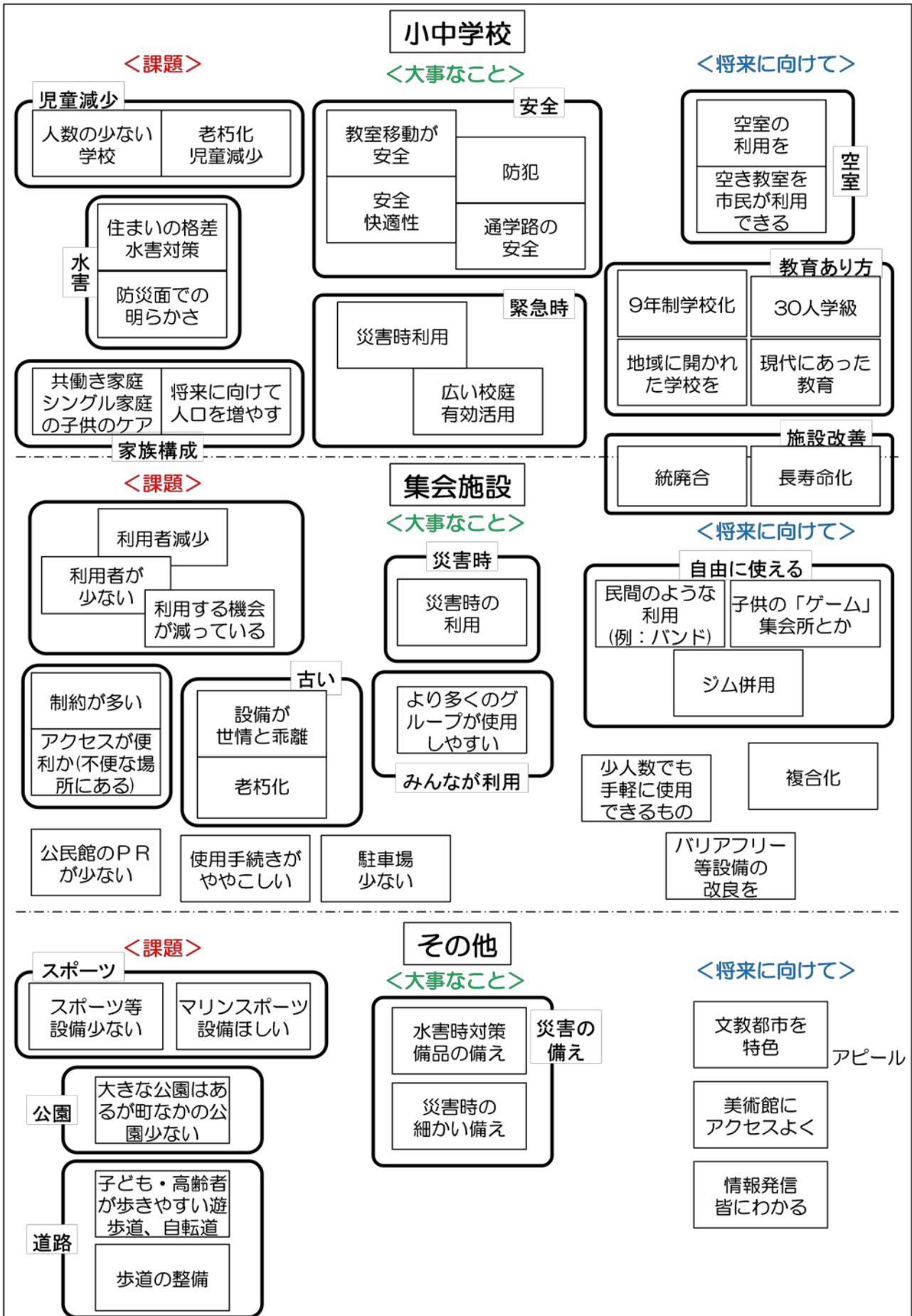
- 記入内容をグループ内で発表し、付箋を模造紙に貼り整理する

- 発表の準備（発表方法や発表者などを決める、壁に掲示）

3回（3用途分）

◆第2回 グループワークおよび発表概要

Aグループ





- 学校の課題としては、家族構成の変化や保護者の事情が変わってきていることへの対応が必要となってくるのが考えられる。
- 集会施設は、利用者が減っていることや利用手続き、駐車場等利用をするにも制約があることが課題として考えられる。ジムやバンドの利用などができれば、学生など幅広く活用できるのでは。
- その他に、身近な問題としてスポーツできる施設や身近な公園が少ないと思う。また、お年寄りや子どもが歩きやすい遊歩道などがあればいいと思った。「文教都市」であることのアピールをもっとしたほうがいいと思う。

小中学校

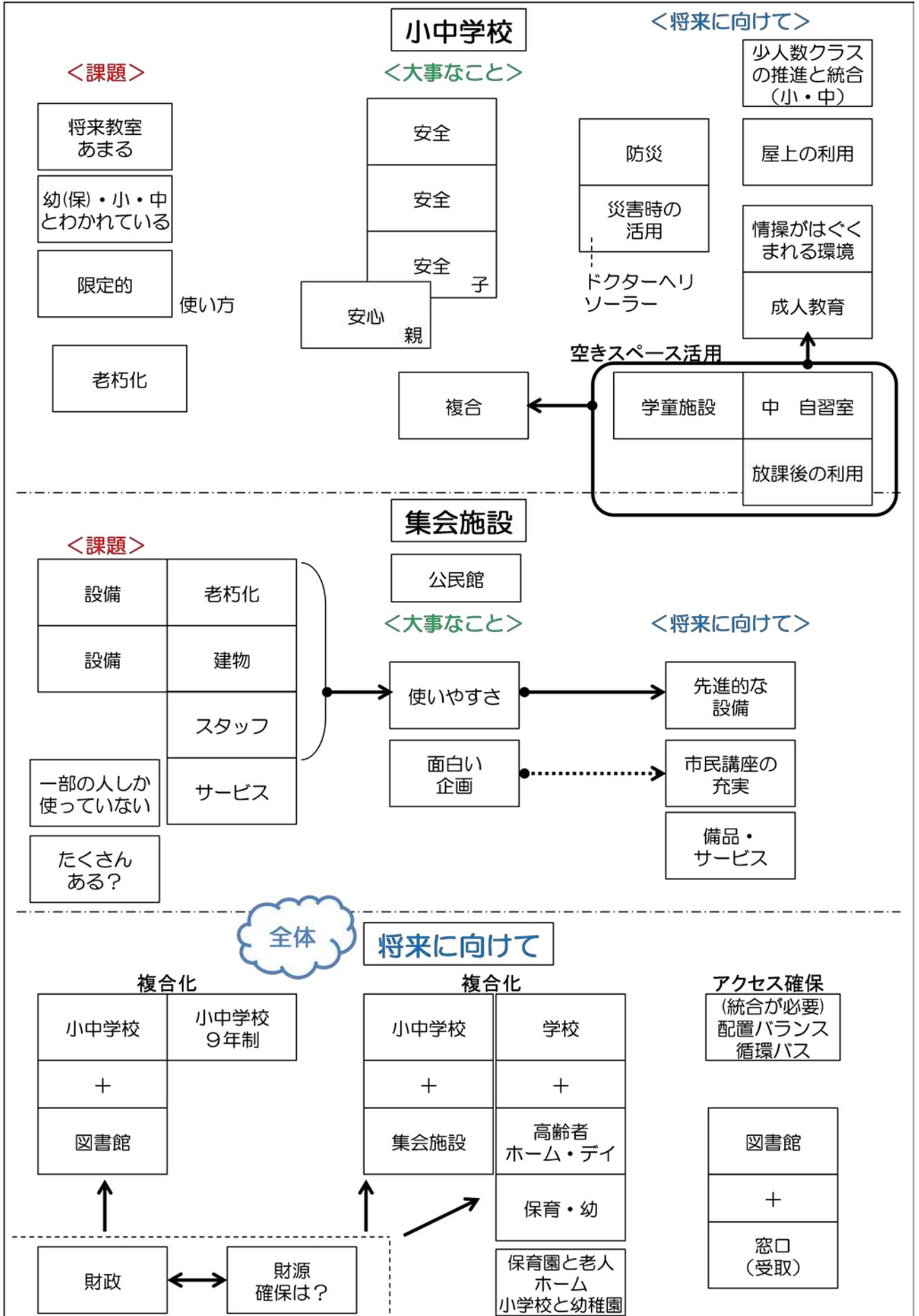
課題	大事なこと	将来に向けて
<p>児童減少</p> <p>人数の少 少 老朽化 の学校 児童減少</p> <p>任意の格差 水害の 対策 防災面での 開ら</p> <p>共働きの交通 シニア層の 増加</p> <p>定数増設</p>	<p>安全</p> <p>防犯 交通安全 通学路 の確保</p> <p>緊急時 の対応 応急 対応</p> <p>広い校庭 有効活用</p>	<p>空室 の活用 教室の 活用 教室 の活用</p> <p>個別学校 の 活用 30人組 の手 組 み 現代 に あ い る 教 育</p> <p>地域に 根 ざ り つ く ま る 学 校</p> <p>施設改善 統合 長 寿 命 化</p>

集会施設

課題	大事なこと	将来に向けて
<p>利用者減少</p> <p>利用者 が 少 ない を 補 う 教 会 が 残 り て い る</p> <p>制約の 多い アクセス の不便 （不便 の多い 所）</p> <p>設備が 古 い 世 情 と 乖 離 老 朽 化</p> <p>公民館の 利用 が 少 ない 使用 手 続 が 煩 雑</p>	<p>災害時の 利用</p> <p>災害時 の 利 用</p> <p>多 く の 機 能 が 使 用 し て い る</p> <p>小人数 で 手 軽 に 使 用 し て い る</p> <p>複合化</p> <p>バリア フリー 等 設 備 の 改 良</p>	<p>自由 に 使 い こ う し て い る 予 後 の 学 校 の 利 用 （例）バ ン ド の 集 会 所 等</p> <p>ジム 併 用</p>

その他

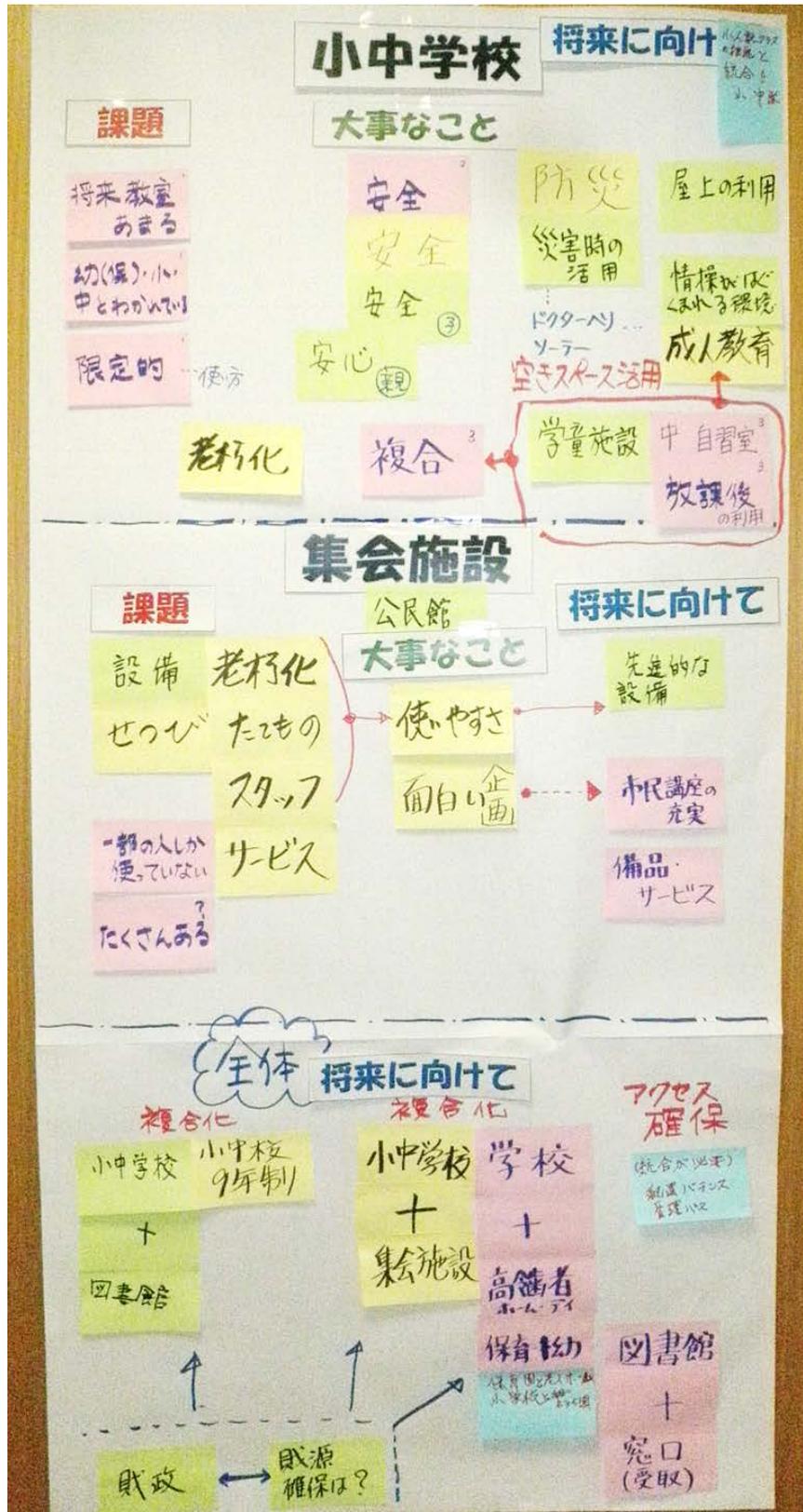
課題	大事なこと	将来に向けて
<p>スポーツ</p> <p>スポーツ 場 マ リ ニ ス ポ ー ツ 場 が 少 ない 増 設 を 希 望 し て い る</p> <p>公園</p> <p>大 き い 公 園 が 少 ない 増 設 を 希 望 し て い る</p> <p>道 路</p> <p>お 年 寄 り や 子 童 も が 歩 き や す い 遊 歩 道 の 設 置 の 整 備</p>	<p>災害時 の 備 え</p> <p>災害 時 の 備 え の 整 備</p>	<p>文教 者 層 を 特 色 と し て い る</p> <p>集 会 カ ン パ イ ン グ の 整 備</p> <p>情報 交 流 の 整 備</p>

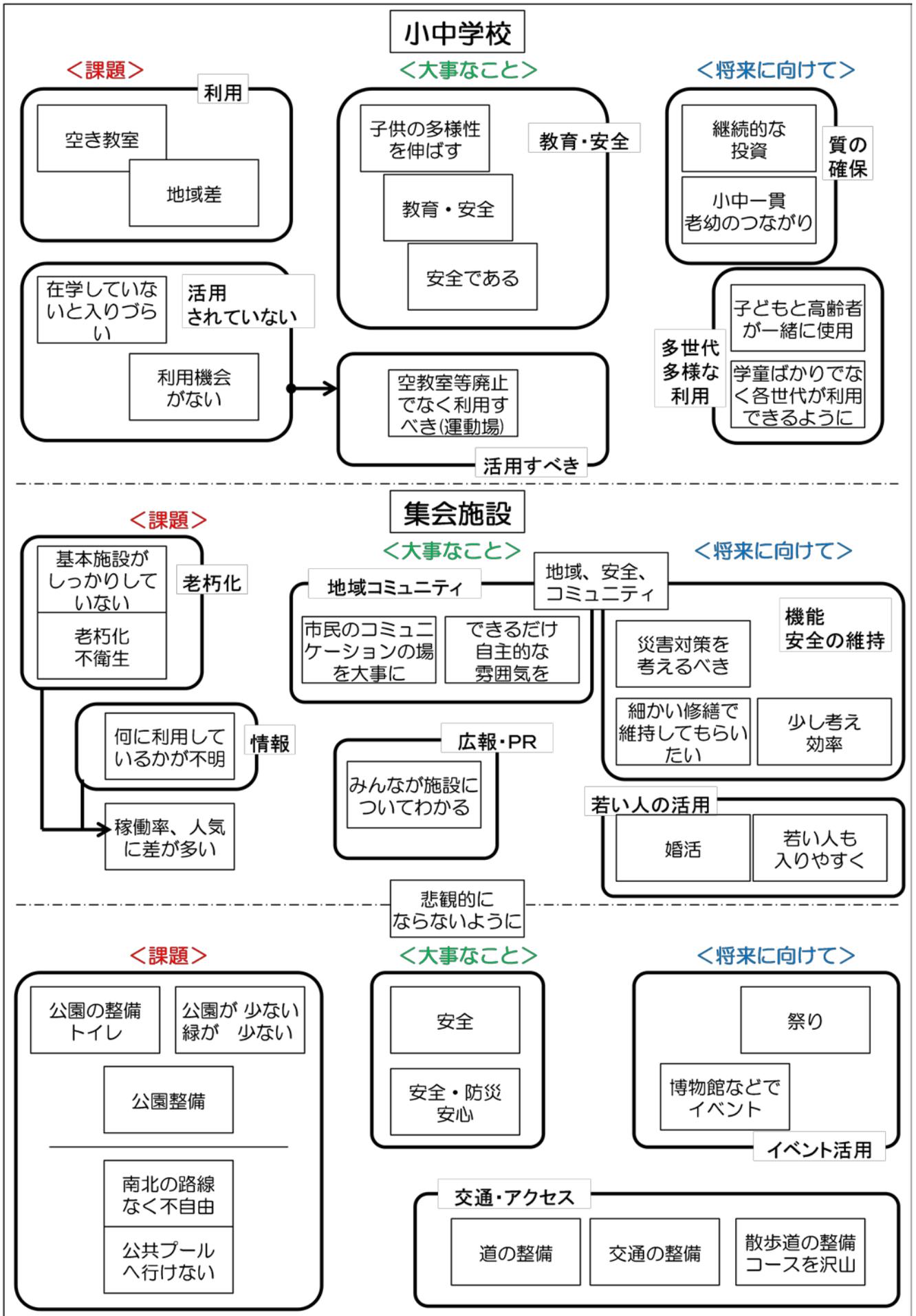


発表



- 学校の課題としては、将来的に教室が余ることが考えられる。今後は、防災拠点として屋上利用ができないか。放課後空いている時間を自習室として開放したり、成人教育にも活用できないか。
- 集会施設は、設備・建物の老朽化とスタッフの高齢化が課題である。面白い企画などで市民講座を充実したり、先進的な設備を入れるなどすれば、もっと利用されるのではないか。
- その他に、学校を集会施設や高齢者施設、保育園などと複合化してはどうか。施設の統合は必要だが、距離が離れる施設はコミュニティバスを走らせてはどうか。図書館も近くで受け取れる仕組みがあればいい。







- 学校の課題としては、空き教室がある学校もあれば、ない学校もあるなど、地域差が生じている。学校によっては外国人が多い学校もあり、多様性に富んでいる。
- 集会施設は、施設の老朽化が進んでおり、トイレも和式ばかり。サークル利用は分かるが、その他何に活用しているのか分からない。若い人も活用できるよう婚活パーティーなどで利用してはどうか。
- その他に、地域によっては公園が少なく、トイレがないところもたくさんある。南北が分断され、行徳は川で分断され、散歩ができない。周辺の道路や散歩道を整備したり、にぎやかなイベントを開催し、継続していくことが大切ではないか。



小中学校

<課題>

教員の教育	いじめに対応 先生の待遇
空教室の活用	空き教室の 利用方法
39校 築50年14校 ある	古い
公共の場所 ?	一部の人の 物のようだ
放課後の 子供の利用	老人の手伝い

<大事なこと>

地域との つながり
地域の交流

<将来に向けて>

地域の人に 見守られて安全に
地域交流 の一体整備

集会施設

<課題>

場所が不明	内容が?
PR不足	公民館 稼働率低い
近所の人との コミュニティ	

<大事なこと>

集中力を 高める
隣・近所の人 と仲良くなる

<将来に向けて>

元気な老人を ボランティアに 使用
付加価値を つける
人が集まる 拠点を作る
何かあったら 助け合える様に

その他

<課題>

人件費の みなおし
情報共有 不足
役所を きれいに!

<大事なこと>

ムダをなくして シンプルに
市民が気持ち よく利用出来る 様に

<将来に向けて>

ECでは 市議員はボラ ンティア施行	全国から注目を 集める市川へ
外国人の 労働者の対応	

発表



- 学校の課題としては、教員への「心のケアの教育」が必要だと思う。空き教室をもう少し市民に開放できないか。共働き家庭のために、放課後、元気な高齢者の見守りの中で子どもが遊べるなど、地域とのつながり、交流ができる一体整備が重要だと思う。
- 集会施設は、場所がどこにあり、何をしているのかPRが不足している。集会施設だけでなく、買い物や子どもの遊びなど、付加価値があるとよいのではないか。
- 市川市は今後、少子高齢化で財政難になる。全国から注目をあつめる市川市になるような取組が必要ではないか。

小中学校

課題	大事なこと	将来に向けて
教員の教育 <small>いじめ対応 先生への対応</small> 児童の活用 空き教室の活用 39校 築50年 14校 <small>みる</small> 古い 公民館の場所 <small>一部の人の 抑々様</small> 放課後の子供の利用 老人の活用	地域とのつながり 地域の交流	地域の上に 見守り体制 地域交流の 一体整備

集会施設

課題	大事なこと	将来に向けて
場所が不明 内容が不明 PR不足 公民館 森田寺仙 出陣の メニュー	集客力を 高める 隣近所との 仲良くなる	元気な老人を 本気でサポート 付加価値 をつける 人が集まる 拠点を作る 何がある 説明を明確に

その他

課題	大事なこと	将来に向けて
人件費の おぼろ 情報共有 不足 役所を きりかへ!	いざという シナリオ 限られた 水利用を明確に	Eコマンド(購入) 市会議員は 本気でサポート 全国から 集める仲間へ 外国人の 遊学帰りの交流

小中学校

<課題>

教室の稼働率

築年数30年
以上多い
老朽化

エレベーター
なしが多い

建物
・
施設

<大事なこと>

防災拠点
安全安心

<将来に向けて>

空き教室
有効活用

学校をいかに
利用し、収入
を得るか

学校を民間の
方々と交流し
利用

生徒数減少
地区の合併

子供増加地区
建替・複合化

集会施設

<課題>

行政との関係
自治会の
転換期

自治会巨大化

老朽化への
対応

利用者が偏り

若い世代の
方の利用方法

若い世代に
なじみが
少ない

<大事なこと>

統計を取って
利用率で廃止

不利用の廃止

NPO法人化

<将来に向けて>

若世代・高齢
世代交流

お年寄りと子
供との交流場
に

交 流

地域の交流の
場を

<課題>

閲覧スペース
が少ない(自
習多い)

直営が多い
コスト削減

気軽に借り
返却できる

図書館は年齢
なく利用できる
ので使用

民間への委託

コンビニ・駅
との連携返却

施設の多目的
統合

施設の複合化

自治会館の建
設、集約

<大事なこと>

図書館の中で
の利用方法

<将来に向けて>

ソフトの充実

魅力ある
街造り

NPO法人化

老人の活用

ボランティア
の100%廃止



- 学校の課題としては、昔は生徒数が多くて、1 クラス 45 人学級だったが今は生徒数が減っている。今後、統廃合をして残った学校をどう利用するか、民間と交流して利用するなどにより収益を得れば、還元できるのではないかな。
- 集会施設は、施設の老朽化が課題。利用されていない施設は若者にもなじみやすい施設とすることが重要。運営を NPO 法人化できないかな。
- 将来は若い世代と高齢世代とが交流できる、地域の交流の場となっていくことが重要ではないかな。



テーマ：小中学校

	Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・児童数の減少（人数が少ない学校） ・家族構成の変化（共働き家庭、シングル家庭の子供のケア・人口減少） ・校舎の老朽化 ・水害への対応（居住地によって水害の起きる格差がある・駅周辺） 	<ul style="list-style-type: none"> ・将来的には教室があまる ・幼稚園（または保育園）と小・中学校が分かれていること ・使い方が限定的である ・施設が老朽化している 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き教室がある学校もあれば、無い学校もあるなど、地域差が生まれていること ・在学していないと入りづらい、どう利用したらよいかわからない、利用する機会・きっかけがないなどにより、一般に学校施設が活用されていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の教育や生徒への対応 ・空き教室の活用 ・校舎が古い ・公共施設と言うより一部の人の物となっている ・放課後の子どもの利用 ・元気な高齢者の手伝いが必要
大事なこと	<ul style="list-style-type: none"> ・安全性・快適性（防犯・通学路の安全） ・緊急対応（災害時の活用、広い校庭の活用） 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもにとっての安全が一番大事 ・親にとっての安心が一番大事 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人の子弟が在籍するなどに関して、子どもの多様性を伸ばすことなどを含め、教育面が重要 ・安全の確保 ・空き教室の活用等、すぐ廃止ということではなく、利用すべき 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との交流・繋がり
将来に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・教育のあり方（9年制学校・30人学級・現代にあった教育） ・地域に開かれた学校 ・空き教室の活用（空いているスペースを市民が活用できるように） ・施設の改善（統廃合・長寿命化＜文科省＞） 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校は防災拠点であるので、災害時にもっと活用できるように工夫できる（ドクターヘリやソーラーなどで屋上利用） ・空きスペースの活用として、学童施設との複合化、放課後に自習室として活用するなど ・そうすることで、成人教育や情操がはぐくまれる環境になっていける ・少人数学習の推進と、学校の統廃合が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫校化や、高齢者・障害者施設等との連携を強化する ・教育環境の整備に向けて、継続的な投資を行い、質の確保を図る ・学童ばかりでなく、多世代が利用できるようにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の人に見守られることで安全に ・地域交流の一体整備

Eグループ	その他（意見交換）	ファシリテーターコメント
<ul style="list-style-type: none"> • 教室の稼働率低下 • 生徒数減少、増加地区への対応 • 築年数30年以上の老朽化した建物が多い • エレベータの無い学校が多い 	<ul style="list-style-type: none"> • 今回、小中学校のテーマなので出していないが、「保育所の問題」があるような気がする。保育所の併設も必要ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> • 子どもの減少による「空き教室」が出ていること、いじめなどの「教員の問題」や「子供の多様化に対する教育」の必要性、「地域の利用」、「市川ならではの地域差」などが共通の意見であった。 • 自治体の魅力づくりとして「子育て支援」サービスの充実が必要。
<ul style="list-style-type: none"> • 安心・安全な場所であること • 地域の防災拠点 	<ul style="list-style-type: none"> • 小学校は、地域によっては人数的にかなり厳しい状況の学校があると感じている。統廃合は免れないと思う。このあたりの方向性についての議論が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> • 「市川の特徴である水害対策」の面からも防災拠点としての機能が重要。 • 「地域とのつながり」や「国際性・多様性」を大事にしていくべき。 • 学校は校庭なども広く、施設を有効的に活用していく。という意見があった。
<ul style="list-style-type: none"> • 空き教室の有効活用 • 民間活用し、収入を得る • 生徒数増減に伴う合併や統廃合、校舎の建替や複合化 		<ul style="list-style-type: none"> • 「空き教室活用」の活用も含めた「複合化」、「小中一貫」「自習室活用」「大人も使えるスペース」「もっともっと民間利用されるべき」「校舎の長寿命化が必要」という意見が多かった。 • 統合や複合化の意見が出ていたが、多いところと少ないところの地域差が際立ってきている。地域の人が自らのこととして自ら考えることが必要ではないか。

テーマ：集会施設

	Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・利用率の低下（利用者の減少、使う機会が減っている） ・利用しにくさ（利用の制約が多い、アクセスが不便なところにある、手続きが煩雑、駐車場が少ない） ・施設の老朽化 ・設備が世情と乖離 ・公民館のPRが少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・設備、建物の老朽化、スタッフの高齢化 ・一部の人しか使っていない ・サービス面でも工夫が必要 ・施設数が多いのでは？ 	<ul style="list-style-type: none"> ・老朽化が進んでおり、基本設備の利用環境が整っていない ・利用者以外にとっては、どう利用できるのか情報が不足していて不明 ・各施設で、稼働率に格差が生じている 	<ul style="list-style-type: none"> ・場所が分からない ・内容が分からない ・PR不足 ・公民館の稼働率が低い
大事なこと	<ul style="list-style-type: none"> ・自由に使える場所（バンドなどの趣味、子供のゲーム、ジムなどの共用） 	<ul style="list-style-type: none"> ・使いやすさ ・面白い企画があること 	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ自主的な雰囲気大切に、地域のコミュニティ形成に役立つような運営をするべき ・みんなが施設について理解・活用できるような広報・PRを重視すべき 	<ul style="list-style-type: none"> ・集客力を高める ・隣、近所の人と仲良くなる ・地域の人とのコミュニティの場にする
将来に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数でも手軽に利用できること（多人数団体優先でなく） 	<ul style="list-style-type: none"> ・先進的な設備を入れると もっと利用が増えるかもしれない ・市民講座の充実が必要 ・備品・サービスの充実が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の備えた対応を考えるべき ・効率性を考慮しつつ、改修して機能を維持する ・若い人にも活用しやすくする。婚活パーティー開催も一案 	<ul style="list-style-type: none"> ・元気な高齢者をボランティアにする ・付加価値をつける ・人が集まる拠点を作る ・何かあったら助け合える様に

Eグループ	その他（意見交換）	ファシリテーターコメント
<ul style="list-style-type: none"> ・市民と行政の関係 ・建物や設備の老朽化 ・若い世代の利用が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ焼却所のそばにある「スポーツジム・プール」ができれば他の地域にも欲しい。使われ求められている施設であれば有料でも構わないと思う。 ・利用率が下がるという課題があったが、マンションが増え、マンションの中の「自治会の集会室」で完結してしまうところがかんりの数あるはず。まち全体のコミュニティや、人の接触がなくなっている。マンション住民と戸建住民は交流していない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「利用者の減少」「利用に制限がある」「情報発信不足で良くわからない」「老朽化が進んでいる」などの課題が出された。 ・市川市ならではの課題であるアクセスが良くなれば、利用がしやすくなるということも考えられる。 ・人と人とのつながり、コミュニティの形成はとても重要。互いを知ることで災害時の活動を行う際に自分たちで助け合うことができる。 ・建物が老朽化しているという意見があったが、まさに中身が重要になる。マンション住民と戸建住民が交流できる場として活用していくことが課題。
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の統計をとる利用のないところは廃止を検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・集会施設というイメージとして、地域の集まりに使う「自治会館・町内会館」と、社会教育法の目的で整備された「公民館」は分ける必要がある。 ・利用が少ないのはアピールが少ないのではないか。広報に載せているが、果たして広報見て使うかどうか。運営方法が重要だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「付加価値づけ」「多世代の交流」「若者が交流できる企画」「ボランティアで運営する」などの意見があった。 ・施設について、もっと市民が知る状況をつくっていくことが必要。そのためには、運営の方法などについても工夫が必要。
<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代と高齢世代の交流 		

テーマ：その他・全体

	Aグループ	Bグループ	Cグループ	Dグループ
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ施設・設備（マリンスポーツ）が少ない ・公園が少ない（大きな公園・町中の公園） ・道路の整備（高齢者・子どもが歩きやすい歩道・自転車道） 		<ul style="list-style-type: none"> ・地域によって公園が少なく、トイレの整備もされていないところがある ・南北の交通が不自由である。公共プールが活用できない地域がある 	<ul style="list-style-type: none"> ・人件費の見直し ・情報共有不足 ・役所を綺麗に
大事なこと	<ul style="list-style-type: none"> ・安全性・快適性の確保（防犯・通学路の安全） ・緊急の対応（災害時の活用、広い校庭の活用） 		<ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心の確保、防災面での配慮 ・交通・アクセスの改善 	<ul style="list-style-type: none"> ・ムダをなくしてシンプルに ・市民が気持ちよく利用出来る様に
将来に向けて	<ul style="list-style-type: none"> ・「文教都市」にふさわしい特色をアピール ・美術館へのアクセスをよくしたい ・みんなにわかりやすい施設・催しの情報発信（ネット以外でも） 	<ul style="list-style-type: none"> ・複合化（学校＋集会施設、学校＋高齢者施設、学校＋幼・保、学校＋図書館） ・施設の統合は必要。その際には配置バランスを考え、施設が遠くなる場合は循環バスを活用する ・図書館は、受取窓口を便利なところにつくることで統合も可能になる ・何をするにも、お金の問題。財源確保はどうしていくか 	<ul style="list-style-type: none"> ・道路、散歩道（コース）を整備する ・博物館等でのイベント開催や、公共施設での祭りなど、イベントを積極的に開催する ・悲観的にならないようにする 	<ul style="list-style-type: none"> ・市議会議員はボランティアを施行 ・外国人の労働者の対応 ・全国から注目を集める市川へ

Eグループ	その他（意見交換）	ファシリテーターコメント
<ul style="list-style-type: none"> • 直営のものが多く、コスト削減 • 図書館の閲覧スペースが少ない（自習室が多い） 	<ul style="list-style-type: none"> • 図書館の統合ができないかということだが、IT を活用して駅で貸し借りが可能になれば、数は減らせるのではないか。インターネット等をしない人にとっては、図書館は重要。 • 公共サービス施設なので、長期の休館には不便を感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> • 図書館自体の「利用勝手」についてや、「公園や周辺環境」「散歩道の改善」「南北間の行き来」「道路の改善」など幅広い意見があった。 • 図書館は世界的に工夫したものが出てきている。市川市も様々な取り組みがされているが、もっと工夫が考えられると思う。
<ul style="list-style-type: none"> • 誰でも利用しやすいこと 	<ul style="list-style-type: none"> • 図書館が遠く行きにくい地域の方のことを考えて、移動図書館を充実すると良い。 • 学校の複合化の案があったが、学校に一般の人が入ることは工夫が必要。千代田区の学校のように、階で一般と学校を仕分けるなどの仕組みが必要。簡単に空き教室を使うということは不可能な状況。自習室が使えるかという意見があったが、市川市内は省エネで暗い。生徒が暗い中を帰宅する時の安全面を考える必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> • 全体的にはスリム化を図りながら、運営の方法として「民間活用」や「若者が入れる法人化」「シルバーの活用」などの意見があった。 • また、「複合化」「アクセスの利便性」を重視する意見が多かった。 • 市川市の魅力を外へ発信するPRも必要である。 • 学校については、現在さいたま市で具体的な複合化の検討を進めているが、子ども達の安全確保が大きな課題となっている。
<ul style="list-style-type: none"> • 民間への委託 • コンビニや駅との連携（利便性アップ） • ソフト面の充実（建物・施設よりもサービス内容重視） • 利用方法の見直し • 魅力のある街づくり • 高齢者の活用 • 施設の多目的・複合化 		

◆総 評（ファシリテーターより）

<全体を通して>

- ・次回は、「市川市らしい公共施設のあり方を考えよう」というテーマで、これらのキーワードをさらに整理していく作業に入っていきます。
- ・次回の開催に向けて、開催通知とともに今回のワークショップのまとめが送られてきます。その内容を確認していただき、次回どのように整理し、まとめていくかを考えてきてください。

～第2回ワークショップを終えて～

公共施設の見直しにあたっては、経費や利用者数だけでなく、防災・安全・多世代交流など多面的な判断や、統廃合・民間活用・施設の有効活用など様々な手法を検討する必要があるということがわかりました。

Aグループ



Bグループ



Cグループ



Dグループ



Eグループ



4. 第3回ワークショップ概要

◆開催日時 平成27年11月29日(日)午前10時～12時

◆参加者 20名

◆第3回テーマ **「市川市らしい公共施設のあり方を考えよう！」**

◆プログラム

時間	内容
10:00～10:10 (10分)	<p><あいさつ、前回のふりかえり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・主催者およびファシリテーターからのあいさつ ・前回までのワークショップのふりかえり
10:10～10:40 (30分)	<p><グループワーク></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファシリテーターから今回のワークショップの概要、作業の流れ等を説明 ・3グループに分かれて「市川市らしい公共施設のあり方」についてアイディアを出し合う <p>各自：キャッチコピー(標語)1つ、キーワード(単語)3つ (発表しながら模造紙に貼る)</p> <p>出た意見をグルーピングしながら、キャッチコピーやキーワードをまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出されたキャッチコピーを踏まえて、キャッチコピーを実現するために「自分たちができること」を表明する
10:40～10:45 (5分)	<休憩・発表準備>
10:45～11:10 (25分)	<p><発表></p> <p>◇ グループごとに発表</p>
11:10～11:25 (15分)	<p><今回のまとめ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファシリテーターによる「キャッチコピー」「キーワード」についてのまとめ
11:25～11:35 (10分)	<p><今後に向けて></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ファシリテーターによる「自分たちができること」についてのまとめ
11:35～11:50 (15分)	<p><感想></p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者より、ワークショップ全体を通しての感想
11:50～12:00 (10分)	<p><まとめ></p> <p>今後のスケジュール、事務連絡 アンケート記入など</p>

◆開催概要

第3回目（最終回）は、これまでの意見や発表を踏まえて、市川市の公共施設全体を表す「キャッチコピー」「キーワード」と、キャッチコピーを実現するために「自分たちができること」について、グループごとに意見交換及び発表を行ないました。

「キーワード」については、災害や防犯等の危機意識の高まりを表す「安全・安心」、人との関係性を表す「信頼・調和・助け合い・コミュニティ」、施設のあり方に関する「統廃合・複合化」、市の資源、魅力を表す「環境・自然・文化」など、多様な視点からキーワードが挙げられました。

また、「キャッチコピー」については、市川市の持つ自然や歴史文化を活かしつつ、若い世代や新しい住民との融合、調和（シンフォニー）を重視し、子どもからお年寄りまで、多世代が安心して利用できる地域交流の場を表現したものが多く挙げられました。

最後に、自分たちができることとして、自らがまず「知る」ことからはじめ、「積極的に地域活動に参加し、情報を発信し、地域の人々を巻き込むこと」、今回のワークショップをきっかけに「ずっと関心を持ち続けること」といった積極的な意見が出されました。

公共施設のあり方については、厳しい現状の中でも、地域の課題解決に向けて市民自らも考えていくということが重要というまとめになりました。



グループワークの様子



グループ発表の様子

◆前回のふりかえり・本日の作業の流れ（ファシリテーターより）

【前回のふりかえり】

本日は、最終回 3 回目となります。
「いっしょに考えよう！ 市川市の公共施設」ということで考えてきましたが、今回は「市川市らしい公共施設のあり方を考えよう」というテーマで行ないます。これまでの成果として 1、2 回目の成果を壁に貼ってあります。

1 回目は、普段、皆さんが利用者として感じられていることをイラストで描いていただきました。

2 回目は、主に学校施設、集会施設について、「課題」、「大事なこと」、「将来に向けて」ということについて意見をいただきました。

学校施設については、「地域に開かれた環境」「地域の交流」「統廃合」などの意見をいただきました。集会施設では、「人々が集まる仕組みの大切さ」、全体としては地域性やアクセス、周辺環境のことについて様々な意見が出ていました。



前回のグループワーク成果を掲示

【本日の作業の流れ】

3 回目は、まとめになりますが、「キャッチコピー」「キーワード」を出していただきます。

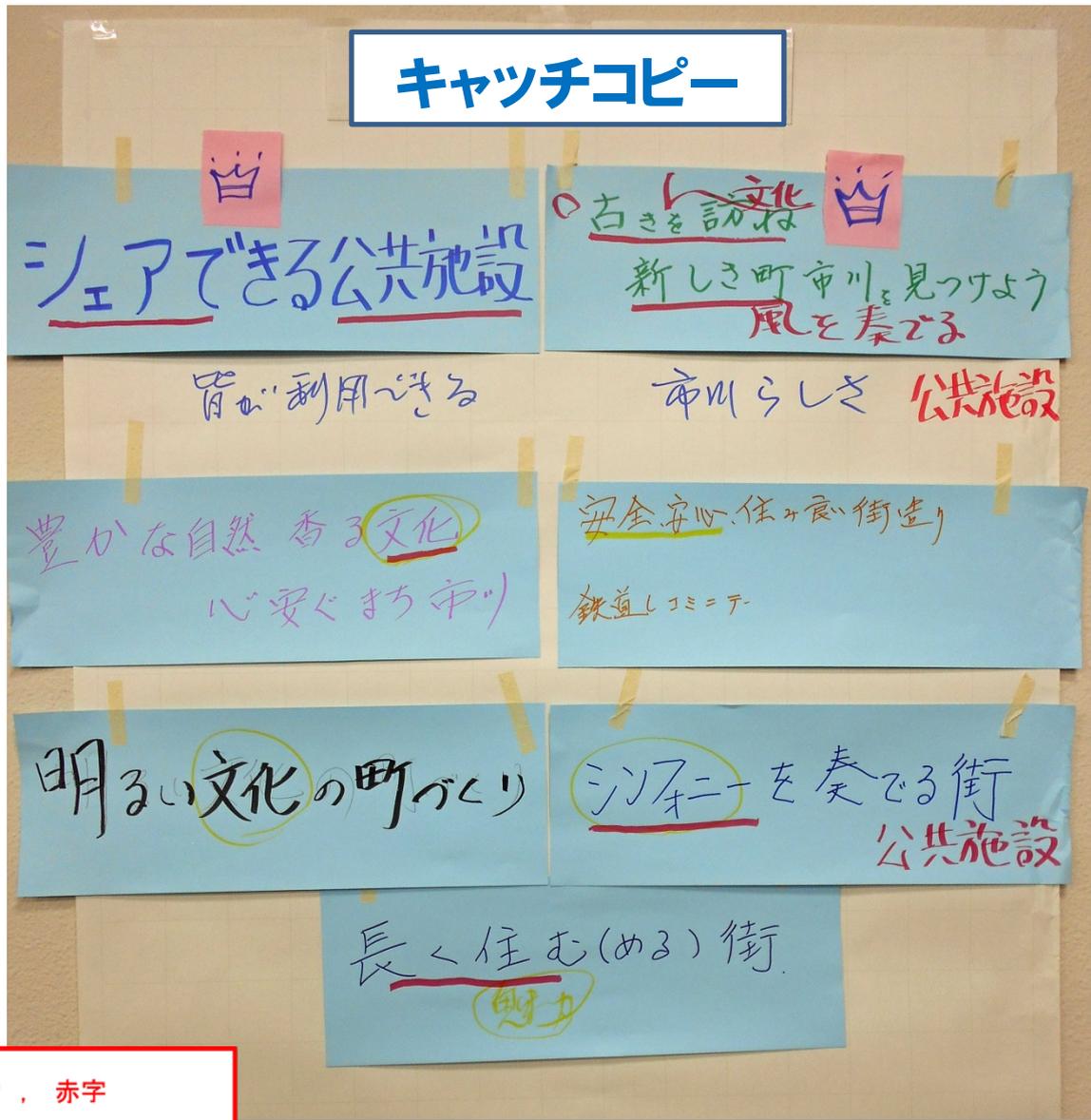
- まず、グループのメンバーが変わっていますので、あいさつから始めてください。
- 「キャッチコピー」についてはグループ内で意見交換し「おすすめ案」を選んでください。
- グループワークの後半は、「自分たちができること」について意見を出していきます。
- グループ発表は「キャッチコピー」「キーワード」について行ない、そこで意見交換します。
- 今後に向けてのところで「自分たちができること」について見ていきます。
- 今回は最終回ということで、最後に 1 人 30 秒程度で「感想」をいただきます。



ファシリテーターが作業の流れを説明

◆グループワークおよび発表概要

Aグループ



——, 赤字
はファシリテーターが記入

シエアできる公共施設

安全・安心・住み良い街づくり
鉄道・コミュニティ

長く住む(める)街

文化
古きを訪ね、新しき町市川を
見つけよう 風を奏でる公共施設

明るい文化の町づくり

豊かな自然香る文化
心安らぐまち市川

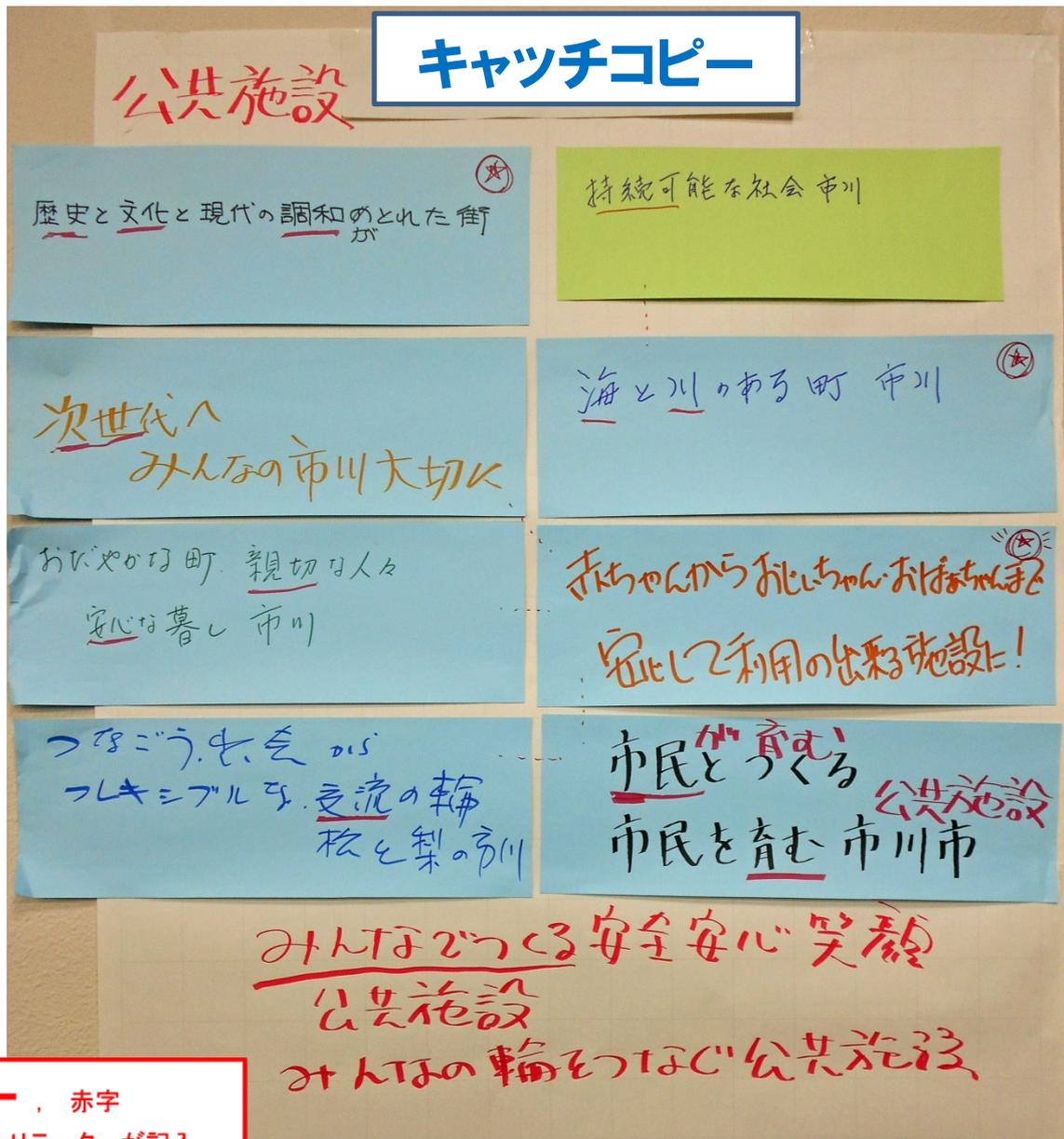
シンフォニーを奏でる街
公共施設



発表

・古い寺や神社があり、文人もたくさん住んだ町なので、その古さを残しつつ若い世代の方達が新しい町を見つめ、調和を奏でていけば楽しい明るい文化の町になり、長く住める町になるのではという思いです。

・「シエアできる公共施設」の意味として、ひとつは安全安心で住み良い施設をみんなでシエアすること、建物の複合化をハード面として整備することで、いろいろな人の目が集まり安全安心につながるという意味です。もうひとつは、民間のサービスや資金を活用して施設を長く使っていくという、官と民でシエアするという意味です。



——、赤字
はファシリテーターが記入

歴史と文化と現代の調和が
とれた街

持続可能な社会 市川

海と川のある町 市川

次世代へ
みんなの市川大切に

おだやかな町、親切な人々
安心な暮らし 市川

赤ちゃんからおじいちゃんおばあ
ちゃんまで安心して利用の出来る
施設に！

つなごう 出会いから
フレキシブルな交流の輪
松と梨の市川

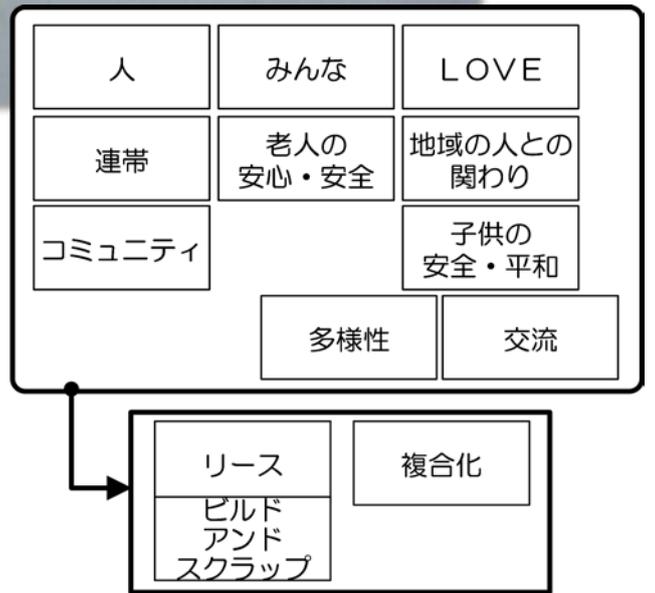
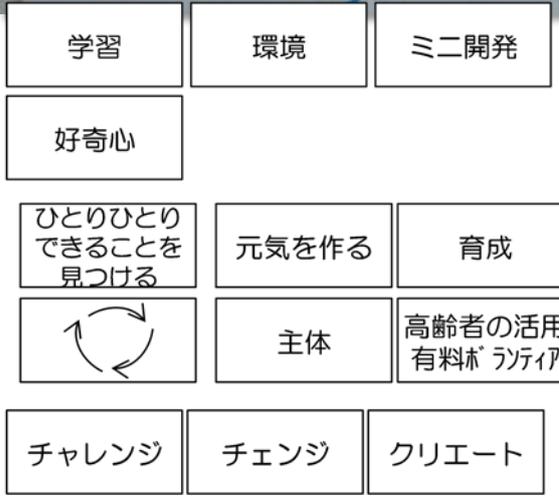
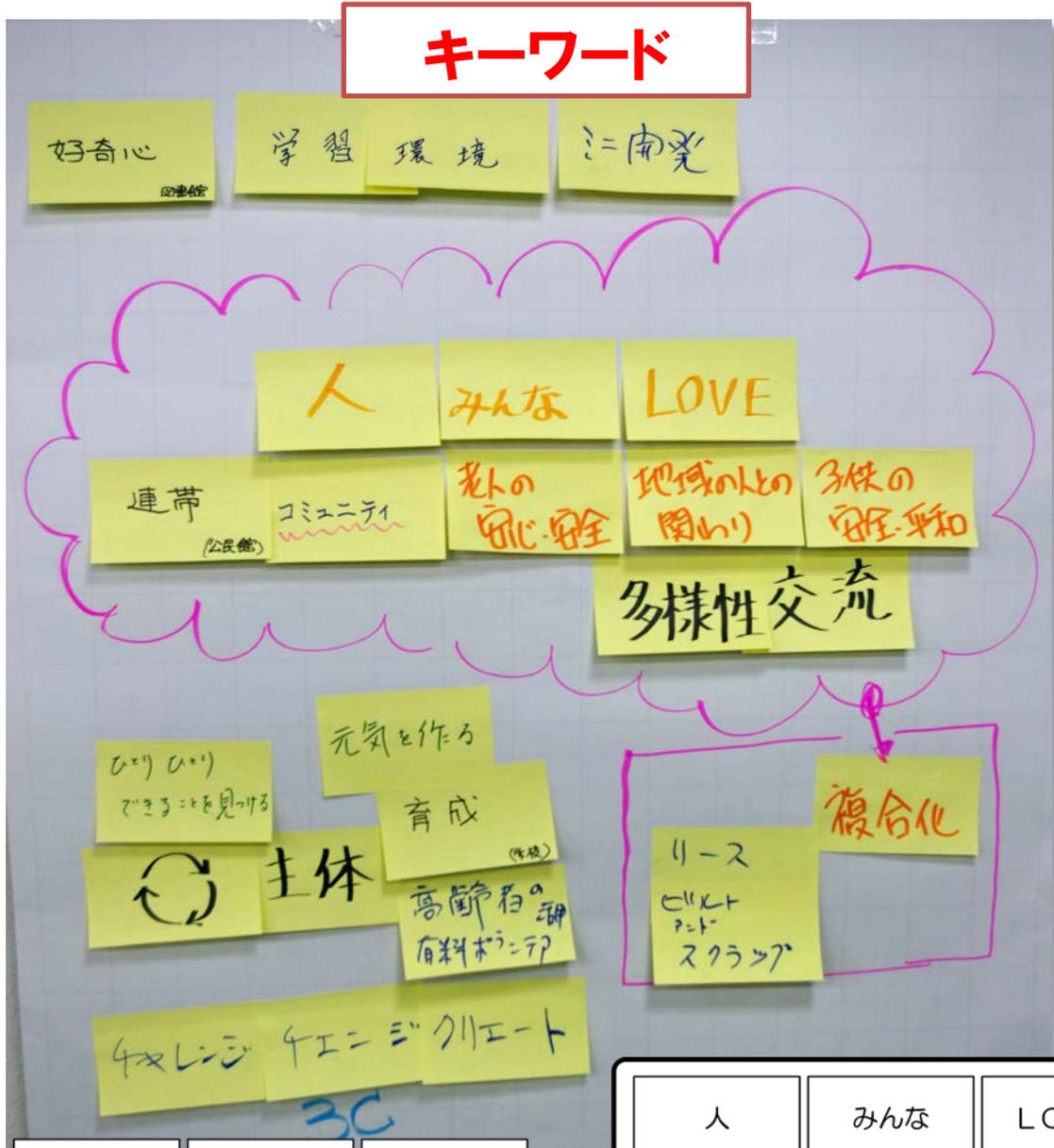
市民とつくる が育む
市民を育む 市川市 公共施設

みんなで作る安全 安心 笑顔
みんなの輪をつなぐ公共施設



- ・キャッチコピーとしては市全体のことと公共施設に関わることを2つに分かれます。
- ・全体としては市川市民として誇りに思い、歴史文化と現代の調和がとれているテーマです。
- ・東京の別荘地として文人が多く住みついていたということ、東京近郊で近代的な施設もあるという市川の誇りを出していきたいと思えます。
- ・狭いけど海があるという環境で、市川市はいい町と思うが、もっと良くして若い人が住み育てできる環境でないといけない。
- ・歴史文化、海から川まであり、赤ちゃんから高齢者まで安心して利用できる施設が必要です。

キーワード



発表



- ・市川は施設数が多いが、まとまっていないので複合化が必要です。
- ・地域ごとに土の香りがする言葉で表現する事が求められています。その言葉にブランドがあると思います。市川は宿場町と梨があります。
- ・高齢者と若者の接点がないので、複合化が求められ、それにより出会いが生まれ、やさしい市になるのではないかと思います。

キャッチコピー

あなたがつくる市川
参加する公共施設

躍動する市川市
支える公共施設・市民
(元気で自助努力も考慮する市民)

市川(市)で楽しむ
公共施設

都市と自然の融合

交通網

住みやすい街
人と自然 市川市

人と自然にやさしい市川

梨の産地 市川

静かなる時限爆弾 地方自治法244条

——, 赤字
はファシリテーターが記入

あなたがつくる市川

参加する公共施設

住みやすい街

人と自然 市川市

静かなる時限爆弾
地方自治法244条

躍動する市川市
(元気で自助努力も考慮する市民)

人と自然にやさしい市川

都市と自然の
融合

交通網

市川(市)で楽しむ
公共施設

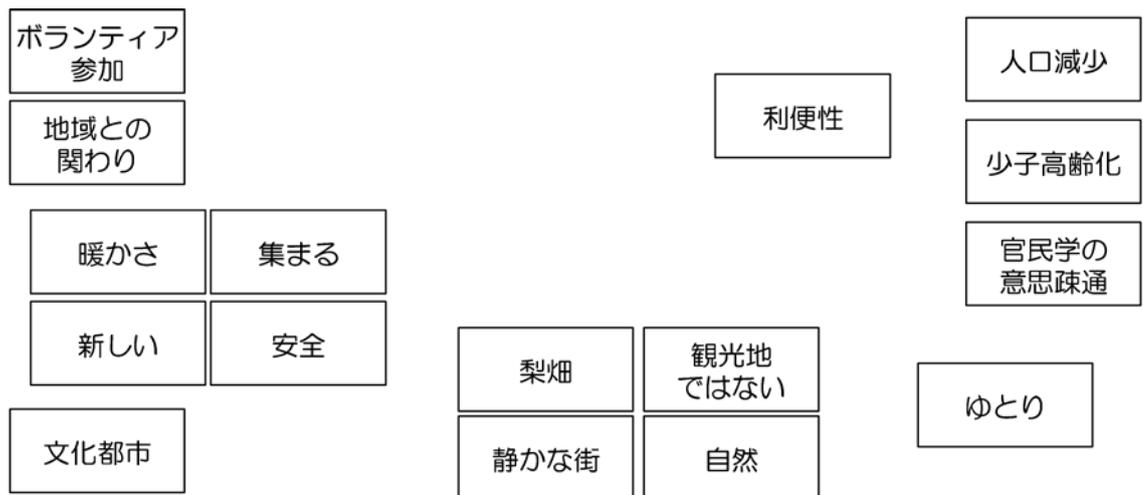
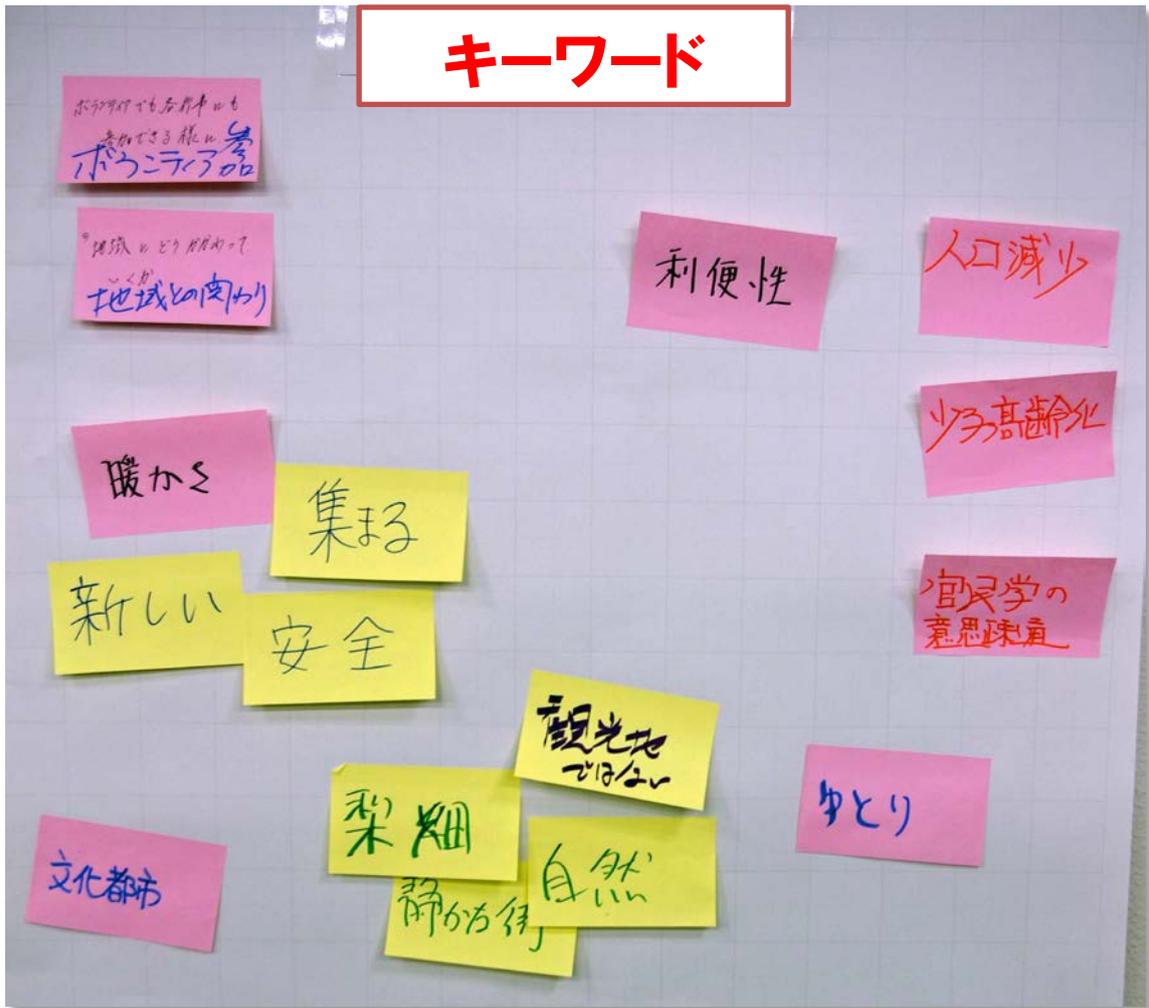
梨の産地 市川

発表



- 市川は自然があるまちと、もう一つは東京に近い都市型のまちの2つに分かれます。
- 自然も豊かに使えるようなことができればいいと思う一方で、高齢化と人が減るという課題も抱えています。
- ボランティア関係や地域の行事、また子どもや高齢者が集えるサロンに参加するなど、自分たちが参加することが非常に重要で、周りを巻き込んで何でも皆でやってみることが大事です。

キーワード



発表



- キーワードとしては「地域の関わり」として「ボランティアに参加」すること。
- 観光も多少は意識しなければならない。
- 文化の都市、都市化の進んだ町という魅力がある。
- 大町の梨畑をアピールして、山梨のように観光の場として工夫も考えたい。
- 市の縦関係ではなく、横関係として市民と一緒にまちづくりに関わることが必要。
- これから15年、20年、全国で公共施設の課題に取り組んでいるので、行政も頑張ってもらいたい。

キャッチコピー・キーワード

	Aグループ	Bグループ	Cグループ
キャッチコピー	<ul style="list-style-type: none"> 古い寺や神社、文人もたくさん住んだ町、その古さを残して、若い世代新しい人が調和を奏でていけば楽しい明るい文化の町になって、長く住める町になるのではという思いです。 今の意見は市川市全体のキャッチコピーですが、補足として「シェアできる公共施設」を挙げました。この意味として、ひとつは安全安心で住み良い施設をみんなでシェア すること、建物の複合化をハード面として整備することで、いろいろな人の目が集まり安全安心につながるという意味です。もうひとつは、民間のサービスや資金を活用して施設を長く使っていくという、官と民でシェアするという意味です。 	<ul style="list-style-type: none"> キャッチコピーとしては市全体のこと、公共施設に関わること2つに分かれます。 全体としては市川市民として、市川を誇りに思って、これからこうありたいということを含めて、歴史と文化と現代の調和がとれているというテーマを入れました。 東京近郊にあって、貝塚があり数千年前から人が住みついていた町ということ、東京近郊で近代的な施設もあるということです。こういう市川の誇りを出していきたいと思います。 以前住んでいた川崎は、多摩川があって市川と似ています。狭いけど海があるという良い環境ですが、もっと住みよくすること、若者も住まないと人口が増えません。若い人が子育てできないといけません。 「歴史文化、海から川まで、赤ちゃんからおじいちゃん、おばあちゃんまで安心して利用できる施設」だと思いました。 	<ul style="list-style-type: none"> 市川はどういう所かを考えると、大町みたいに自然があるまちと、もう一つは東京に近い都市型のまちの大きく2つに分かれると思います。 両方を一緒にやっっていこうと思うと、なかなか難しいのではないかと、それにはどうしたら良いかということ、自分たちが市川で何ができるかみんなでやっていこうじゃないかということと、参加することが大事だと考えました。 一方で、高齢化で人が減るという課題も抱えています。 参加して周りを巻き込んでいくこと、何でも皆さんでやってみることが大事。ボランティア関係や地域の行事、また、子どもや高齢者が集えるサロンなど、できるだけ参加して、それによって自然も豊かに使えれば良いと思います。 自分たちで参加してまちを作っていく、周りの人たちを巻き込んでやっていくというのが一つの大きなテーマであると思います。
キーワード	<ul style="list-style-type: none"> キーワードでは、施設のあり方として「複合化」、物の使い道、震災などの「危機感」、「バリアフリー」などの「安全安心」、また、「信頼」「輪」「調和」は、人との信頼関係や、地域性の「調和」を表しています。 「環境」としては「川」や「文化」、特に市川の名物である江戸川をうまく活かしていけると良いです。 「努力」「助け合い」「力」は、みんなで力を合わせてやっていくということです 	<ul style="list-style-type: none"> 市川は施設数が多いがまとまっていません。複合化が必要です。 いろんな地域で、土の香りがする言葉で表現する事が求められていると思います。その言葉にブランドがあり、市川には宿場町と梨がある。 高齢者と若者の接点がないので、複合化が求められ、それにより出会いが生まれ、やさしい市になるのではないかと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> キーワードは、「地域の関わり」として「ボランティアで関わる」こと。 観光も意識しなければならない。 文化の都市、都市化の進んだ町という魅力がある。 大町の梨畑をアピールして、山梨のように観光の場として工夫したい。 市の縦関係ではなく、横関係として市民と一緒にまちづくりに関わることが必要。 15年、20年、全国で公共施設がどうあるべきかに取り組んでいるので、行政も頑張ってもらいたい。

意見交換

A 「古き文化を訪ね、新しい風を奏でる公共施設」。

- 風は新風、若者といった意味で、「シンフォニー」でもいいですが、「奏でる」の方が調和の意味があると思います。

B 「市川市民が育む公共施設」

- 一般的ですが、市川の交易と川の歴史も表しています。

C 「市川市で楽しめる公共施設」

- 市川市に来てもらうという意味でしょうか。市川市の魅力に来てもらうということでしょうか。地元も他も両方という意味で。

「市川を楽しむ公共施設」

「エンジョイ市川」

- 参加してみんなで工夫して考えることを楽しむということ。

「躍動する市川市、支える公共施設」

「躍動する公共施設、支える市民」

- 何か外部に対する言葉のインパクトが必要かと思います。

B 「みんなで作る安全安心笑顔、

躍動する市川市」

「みんなの輪をつなぐ公共施設」

- 市川市の方言があれば方言で言い換えると良いと思います。

ファシリテーターコメント

- 今、公共施設再編は全国で検討されていますが、まだ始まったばかりですので、どのように再編していくかという方針の言葉は出来上がっておらずこれからです。
- キャッチコピーは、公共施設を今後どうしていくかを表すものなので、最後に「公共施設」を入れて検証してみましょう。
- 言葉を工夫して、よりよいキャッチコピーを考えてみましょう。

・「古き文化を訪ね、新しい風を奏でる公共施設」

「シンフォニーを奏でる公共施設」

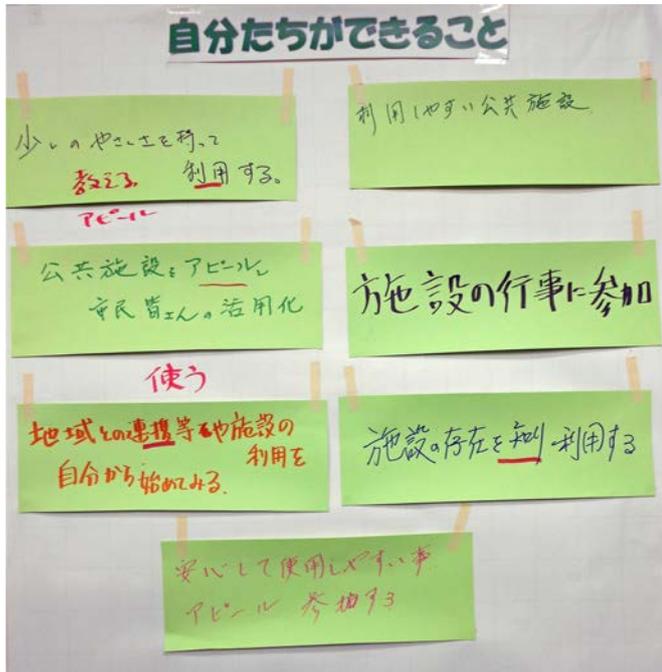
・「あなたが参加する公共施設」

前者はどちらかということ市川らしさをベースにした例です。一方で後者は一般的な表現ですが重要なことです。

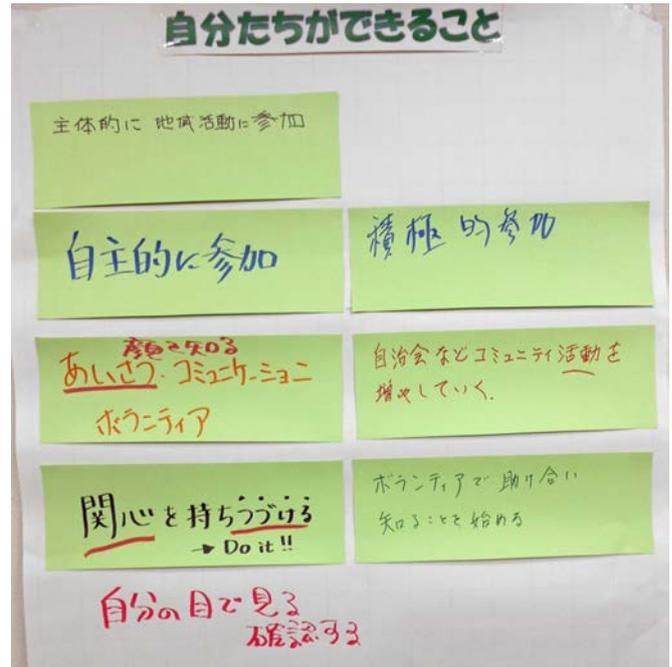


自分たちができること

Aグループ



Bグループ



発表



「地域との連携や設備の利用を自分から始める」

- 複合化により様々な人が集まることで、地域の連携が可能になります。自分から地域との連携や施設利用を積極的に行っていくことが重要と考えました。

発表



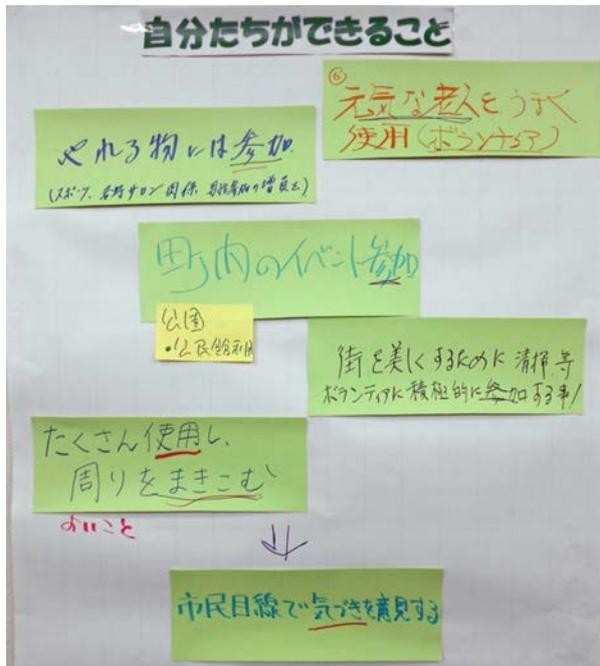
「あいさつ・コミュニケーション・ボランティア」

- 私達ができることはあいさつです。コミュニケーションをとり、ボランティアに参加してみるのも自分たちができることだと考えました。

～第3回ワークショップを終えて～

ワークショップが始まる前までは、公共施設について深く検討したり、利用することのない参加者も多数いらっしゃいました。しかし、回数を重ねるにつれ、全体的に縮減の方向で施設を見直していかなければならないという厳しい状況の中でも、市川市の「歴史文化が薫り、自然環境が豊か」といった地域特性等に配慮しながら、市民が自ら考え、行動し、創意工夫で乗り切るという考えに至りました。

Cグループ



発表



「たくさん使用し、周りを巻き込む」

- 公共施設はあまり活用したことがなかったので、まず利用してみて、その良さや魅力を近所の人や職場の人などみんなに知らせることが自分達にできることだと考えました。

ファシリテーター コメント

- キャッチコピーと共通する「参加」「巻き込む」「関心を持つ」「アピール」「連携」など、重要なことが出されました。市民の皆様が動けば良い方向の変化につながっていくと思います。

＜Aグループ＞

まず自分から利用すること、施設が使われることでそこに人が集まり、地域の人との連携が図られることと思います。

＜Bグループ＞

あいさつが互いのできる状況になるために、自分から行動していくこと、まずは顔を知り、知り合いになることはとても大事なことです。

＜Cグループ＞

特に集会施設は様々な種類がある中で、実際に利用してみることで、施設の良さや大きな課題などが見えてきて、再編する時にみんなを巻き込んで一緒に考えていくということにつながられると思います。

「公共施設への関心を 継続していく」

まさに市民の皆さんに考え続けていただくというワークショップにふさわしい意見でした。

5. ワークショップ全体のまとめ

◆総 評（ファシリテーター：志村先生より）



皆さんお疲れ様でした。このワークショップという手法は、最初にご説明したように、皆さまよりアイデアや発想をいただくものですが、私の専門分野であるまちづくり・都市計画ではよく使われる手法です。ただ、今回のような「公共施設を再編していく、節約していく」というテーマは、縮減、縮小という、どちらかというところ寂しい、要求が多くなる難しいテーマです。

ワークショップのまとめとしては、3点お話をさせていただきます。

1点目は、公共施設の問題は、市川市だけでなく、日本の自治体すべてに直面していく問題ですので、皆さんもこの壁をどう乗り切るかということを考え、私としても様々な自治体と一緒に考えていかなければならないと思っています。

難しいワークショップなので、アンケートでも3回では少ないのではないかとといった意見もありましたが、行政が積極的に市民の声を聴くワークショップをやったということの評価いただければと思います。

2点目は、3回という少ない回数でしたが、今日も本当にいいキャッチコピー、キーワード、自分たちできることが出されました。

振り返ってみると、第1回はイラストを描いていただきました。まずは市民として利用している人の実感として表現していただいたところでした。施設に限らず、周辺環境、備品の使い勝手に対しても意見をいただきました。2回目では、重要な課題として例えば「交流」、「複合化」などのキーワードが市民の方々自ら出されました。3回目では、毎回の宿題などがあって大変だったと思いますが、しっかりした成果が出て良かったと思っています。

3点目は今後のことですが、先ほど話しました「今後、公共施設をどうするか」については国全体の問題です。私は以前、文部科学省で行われている学校施設とその他の公共施設をどう複合化していくかという検討会の委員を務めていました。学校施設の場合は、特に地域との関係を考えてコミュニティづくり・交流促進を図っていくために、どう複合化していけば良いのかということを検討する必要があります。

市川市においても市民参加のもとで公共施設を検討していく方針ということですので、市民の方とこのような意見交換、交流するという機会が必ず出てきますので、今後も積極的に関わっていただきたいと思います。どうもありがとうございました。

◆市川市・経営改革室長のあいさつ

10月31日から本日まで合計3回にわたり、貴重な土日を使ってご参加いただきありがとうございました。

これまで、公共施設をどうしていくかという基本的な考え方を定めるにあたり、市民アンケート、ワークショップを手始めに進めてきました。この中で3つの驚きと感動を覚えました。

1つ目は市民アンケートの回答率の高さです。通常、医療、福祉、保健、交通といった市民アンケートでは30%~40%といった回答率ですが、今回はそれを遥かに超える55%以上の回答率があったということです。

2つ目の驚きは、今回、アンケートの回答をいただいた中からワークショップの参加を募集しました。本当に集まるかと不安でしたが、20名以上の方から参加の意思を表明していただいたことです。

3つ目の驚きは、今回の参加が初めてという方が殆どだと思いますが、今回の方式は市民討議会方式というドイツで行われている市民参加の手法を使いました。通常は公募で募集して手を挙げた人が参加するのですが、今回は無作為に選んだ人の中から参加いただく、市川市で初めての方法をとりました。

その結果、3回にわたり、明確な考えをもって、的確なご意見をいただいたことです。改めて市川市民の皆さんの意識の高さを認識させていただきました。

これから、具体的に施設をどうするか、あるいはどのような考えで進めるかという具体的な話に入っていきます。様々な意見、実際には反対意見も多いかと思います。その中で、参加の皆さんにサポーターになっていただき、ご意見、ご批判を頂きながら計画をつくってまいります。今後も様々なところでお声かけすることもあるかと思いますが、その節にはよろしく願いいたします。ありがとうございました。

～ あとがき ～

この度は、全3回のワークショップにご参加いただきありがとうございました。

ワークショップの中でもご説明いたしましたとおり、本市では、施設の老朽化の進展や人口減少および人口構成の変化に伴うニーズの変化、さらに厳しさを増す財政状況など、公共施設を取り巻くこれらの厳しい現状や課題をいかにして克服していくかという、今後の公共施設全体を長期的な視点で見直していくための計画策定を進めています。

この計画策定を進めるにあたり、配慮すべき事項のひとつとして「市民との情報共有、合意形成を図る」を掲げました。公共施設を利用する市民の皆様に関わる課題であることから、まずは情報提供をし、様々な立場の方の意見を聴くことが重要であると考えています。

このため、策定作業は、まずは市民アンケートを行うことから始め、今回のワークショップへとつなげてきました。

本市におけるワークショップの取組みとしては、これまで、各分野における計画策定や事業の実施段階において積極的に実施してきました。現在は、市役所庁舎建替えに伴い、新たに庁舎内に設置される市民活動や交流のスペース（協働テラス）の配置計画や協働のあり方を考える「新庁舎建設市民ワークショップ」を平成26年度から実施しているところですが、公共施設全体の今後のあり方をテーマとするワークショップは初めての取組みとなります。

今回のワークショップ実施にあたっては、主に以下の4つの「ねらい」がありました。

①計画の策定を市民参加のもとで進めること。

※特に、これまで市に対して意見を言う機会の無かった方に参加いただき意見を聴くこと。

②本市の公共施設の現状を周知すること。

③得られた意見やキーワードを計画策定に取り入れていくこと。

④公共施設に関する市の取組みに対して、共に考えていただける意識の高い市民を探し出すこと。

まず、①につきましては、前述したとおりの経緯で進めてきました。また、参加者については、経営改革室長の挨拶でも申し上げましたが、これまで参加経験のない方に参加していただくため、一般的に行う広報等での公募や市民活動団体等の推薦を行わず、市民アンケート回答者の中からの応募のみに限定いたしました。その結果、市民アンケートをきっかけとして初めてこのような場に参加したという方が殆どで、従来の方法では聴くことのできない方々の貴重なご意見をいただくことができました。

②につきましては、先に実施しました市民アンケートの中に、市の現状や課題を示す基礎資料を添付しました。この結果、多くの方に関心を持っていただき、今回のワークショップ実施へとつなげることができました。また、ワークショップを通して皆様から、情報提供、PRが重要であるとの意見を多数いただき、さらにその重要性を再認識いたしました。

③につきましては、全体的には統廃合などによる総量削減はやむを得ないことを認識したうえで、防災や安全性、利便性、多世代交流など、多面的な要素で施設の有効性や妥当性、効率性を検討していくとともに、単に統廃合だけでなく複合化や民間活力の導入といった様々な手法を用いて課題を解決していくことが必要であると改めて認識しました。さらに、市の資産である歴史や文化、自然環境などの地域や人との調和といった視点も重要であると考えています。

④につきましては、最後に意見交換された「自分たちができること」の中で、「自らが積極的に参加し、周りを巻き込んでいくこと」「公共施設への関心を継続していくこと」が出されました。皆様の意識の高さを感じるとともに、今回のワークショップの最も大きな成果でもあると考えています。

今回のワークショップは、全3回をわずか1ヶ月という期間の中で実施したため、配布資料や宿題も多くなりました。皆様からも3回という回数では少ないという指摘や、もっと個別具体的な施設についての議論がなされると思ったというご意見もありましたが、今回は公共施設の全体的な考え方について皆様のご意見お聴きし、将来の方針をまとめていくために開催いたしました。

回数や期間の短さについては、打ち合わせの中で志村先生からもご指摘がありました。また、市民との「合意形成」については、「企画の段階から市民とともに考え、何度も話し合いや意見交換を重ね、共通認識が図れて初めて言える言葉であって、最初から使うものではない」とのご注意もいただいたところです。

志村先生がファシリテーターとして参加されている、さいたま市のワークショップは、学校施設の建替えに伴う複合施設整備について、企画の初段階からワークショップによる参加手法を取り入れ、市民とともに3年の期間をかけて整備計画を作り上げるといふ、まさに市民との合意形成を実践した先導的な取り組み事例です。

本市では、今年度策定する全体計画をもとに、来年度以降、用途ごとの個別施設についての検討が進められることとなります。皆様には、今回のワークショップ参加をきっかけに関心を継続し、高めていただければと考えています。一方で、市からも積極的に情報を発信し、進捗の各段階に応じて、ワークショップなどの参加の機会や場を設けてまいりますので、引き続き公共施設等の総合管理に関する取り組みにご意見、ご助言くださいますようお願いいたします。

【市川市 経営改革室 経営改革課】

6. 参加者アンケート

- ◆市川市の公共施設の課題について、現時点でどのようにお考えでしょうか？ 課題の重要性や解決の方向性など、ご意見等をご記入ください。（第1回、第3回）

第1回アンケート
一度未収金の確認を。年間数億円の回収がされていない。資金的にある程度解決できる可能性はあると思います。
今のところはなし
欠席
意見なし
1.安全性（道路状況の悪さ） 2.学校施設 3.集会施設 の順でしょうか。
学校に時々伺うことがあり、空室が多い。できれば保育所や老人用に使えたらと思う。
あまり使用しないので？
合理化の必要はあるが、基本的な施策（公園や公衆トイレ）などの管理をしっかりとって欲しい。
イス、テーブルなどの使い勝手の悪さ。
銀行等のように統廃合して、さまざまな節減を考えるのも方法の1つだと思います。
魅力ある市川市造りで、いかに税収をあげ、どのように予算配分するのが必要だと思う。
安全性、役割
やはり老朽化により全てを対応することはむずかしいと思います。集約、複合化は良いと思います。あと、他の市町村で見る図書館の民営化の検討をすることとなるのでしょうか。
新規建築については問題有り
市の財政がゆるす中で、身の丈にあった施設へ統廃合が必要と思われる。
インフラの進め方おそい。
遊休地、学校、空家 活用。
これからは、人口が減少しつつあるので、施設の利用率を確認して減らすべきか、補修しながら利用していくか考えていくのがよいと思います。
欠席
公共施設は民間施設とは異なって、利益を追求する施設ではないことから、利用率なども重要ではあるものの、それ以外に公共で行うことの意義を考えながら、維持すべき施設の優先順位を決めてほしい。
2012年まで海外（東南アジア）で働いており応答難しい。今後考える。
現状、県立生涯大学で学んでいる。他の市の情報を得て研究する。
欠席
老朽化対策について、利用状況が中途半端である建物が多いため、社会的な役割と安全性の観点から、建物を整理して計画をしてもらいたい（建替えや用途変更、大規模改修など方向性）

※お一人の回答を同行に記載しています。

第3回アンケート

ボランティアでの使用とサークル等（資金を取ってやっている）との利用方法を考えてほしい。予約の取り方に工夫を。

複合化の計画では、地域の特性（人口、地理、歴史等）を含めて欲しい。一方的な計画にならないように。公共施設、公民館等がたくさんあると聞きます。いくつかを整理してその分コミュニティバス等で利用しやすく考えて頂けるとありがたいです。

財源が足りないということが十分にわかりました。現状に立ち止まるのではなく、市川市全体として広く課題を知り、前向きに受け入れられるようになると良いです。

欠席

施設の広報、広く多数気軽に参加できるイベント等の開催等があったらと思う。

新旧ははっきりされたら良いと思う。処分には賛成です。

欠席

スタッフの若返りと、魅力ある企画力を求めたいと思います。

はっきり言って余り使用していない施設は統廃合すべきだと思います。もし新しい建物へ移行するなら外観の美しいもの、市川市の建物とわかるようにした方がいいと思います。

民間委託も必要でしょうが、商主義（利益優先）には気をつけたい。Co-work という形がいいかと。

1.公共施設の老朽化、整備、利用が便利さ 2.再建の為に積立 3.維持管理の運営（食料の確保、水等）

人口が増えている地区、減っている地区あり、集約していくことはやむなしといった感じはあります。利用するための交通手段を考えればと思っております。

市の財政を考えると、扶助費の増大、及び65才以上の人口増加を考えると施設建設等費用が確保できるのか？ ①増税をするか②福祉を削減するか③建設を抑えるか しかない。市の方針は？

保育園、小・中学校については、若い世代を市川市に呼び込む観点からも、改革案を考えてほしい。

集約、複合化、リースの考え方の方向へ。

皆様のご意見を伺って、安心安全に過ごせて、古きを知り、老人から若い方々まで皆さんが関心を持って公共施設が利用できるようアピールし、市民の皆さんが一体に明るく楽しい市川であるように願っております。

地域によって利用率の高い所と低い所がある。無駄を出さないことから検討が必要。

利用率を高めることが必要：老朽化への対応、プログラムなどソフト面についても市民ニーズにあった内容へと更新が必要。

学校は5階建てが多く公民館等は2～3階、大修理等で経費の削減可能では？

公共施設について全般的なことを広報PRしていくことで、広く市民に知ってもらうことから始めた方がよいと思います。

意見なし

◆ワークショップへの参加を通じて感じたことなどをご記入ください。

意見・感想
市の状況、市民の考えの多様な事、色々知ることができて、参加できてよかったです。ドイツ方式のワークショップとのことですが、市民参加できる話し合いはこれから増えていって欲しいと思います。
いろいろな市民の方達と知り合えたのは良かったが、ワークショップのやり方はなじめなかった。
とても面白かった。市民として市政に参加することの意義を感じました。
見識のレベルが高い市民が参加し、とても楽しく市川について勉強できました。
いろんな方の意見が聞けてどれも素晴らしく大変勉強になりました。今回は参加させて頂きましてありがとうございました。市役所の方は大変ですが、市川市が魅力的になるようにどうぞよろしくお願い致します。
様々な意見が多く勉強になった。
勉強になりました。テーマをしぼってください。
とても参考になった ありがとうございます。
市川市で生まれ、育ち過ぎて参りまして、ワークショップに参加できまして、意見を言え、皆様のいろいろな意見を伺い、市川市民であることがよかったとあらためて嬉しく思っております。市川市の今後の発展を願っております。
市川市の公共施設について理解が深まりました。これがいかに生かされるか？
勉強できた。市のことを「やってもらう」から「やっていこう」という気持ちになれた。このままで終わらず、関心を持ちつづけたい。
市川市をもっと大切に、大事にしていきたいと思います。市民が市川市を好きになる事はとても重要なことだと思います。
市川市について知らないことがたくさんありました。ワークショップを運営して下さった職員や他の皆様ありがとうございました。
色々な意見が有り、参考になった。若い人や中高年の参加がもう少しほしかった事と、良く利用している団体が参加したら良かったのではないかな。
初めての参加で市川市を具体的に知る事 勉強する事が出来た。

市川市公共施設に関するワークショップ
「いっしょに考えよう！ 市川市の公共施設」
実施報告書

発行日：平成27年12月

編集・発行：市川市 経営改革室 経営改革課

〒272-8501

千葉県市川市八幡1丁目1番1号

TEL：047-334-1111（代）